

石巻まちなかエリア未来ビジョン



令和7年3月
石巻まちなかエリアプラットフォーム

はじめに

1

第1章 未来ビジョンの策定にあたって

3

- (1) 石巻まちなかエリア未来ビジョン策定の目的と範囲
- (2) 中心市街地におけるまちづくりの経緯
- (3) 石巻まちなかエリア未来ビジョンの位置づけ

第2章 石巻まちなかエリアの基本情報

7

- (1) 人口の推移
- (2) 店舗の立地状況
- (3) 低未利用土地や駐車場の立地状況
- (4) 歩行者及び自転車通行量
- (5) 3つのエリアにおける平日・休日の歩行者及び自転車通行量の割合
- (6) 川沿いエリアの来訪者の特徴
- (7) 立町・中央エリアの来訪者の特徴
- (8) 中心市街地で起こっている現象

第3章 目指すまちの将来像

17

- (1) 検討の経緯
- (2) 暮らす人たちの思い
- (3) 石巻かわまちエリア社会実験
- (4) 豊かな石巻暮らしに向けて
- (5) 目指したいまちの姿
- (6) 目指したいまちの実現に向けて

第4章 各エリアにおけるリーディングプロジェクト

27

- (1) まちづくりの方針
- (2) リーディングプロジェクト一覧
- (3) 川沿いエリアにおけるリーディングプロジェクト
 - ① 北上川であそぼうプロジェクト
 - ② 川沿いをみんなの広場にプロジェクト
 - ③ 空き地・空き店舗活用プロジェクト
 - ④ まちの宝が見える化・磨き上げプロジェクト
 - ⑤ 川沿いの街並みづくりプロジェクト
 - ⑥ 交通アクセス改善プロジェクト
 - ⑦ 中瀬の居場所づくりプロジェクト
 - ⑧ エリアマネジメントの推進プロジェクト
- (4) 駅前、立町・中央エリアにおけるリーディングプロジェクト
 - ① まちのチャレンジ応援プロジェクト
 - ② 石巻のまち“のこし”プロジェクト
 - ③ “もっと居たくなる”まちなかプロジェクト
 - ④ まちを楽しく発信プロジェクト
 - ⑤ 訪れやすいまちなかプロジェクト
 - ⑥ 駅前の居場所づくりプロジェクト
 - ⑦ エリアマネジメントの推進プロジェクト（川沿いPJ再掲）

第5章 プロジェクトを進めていくにあたって

65

- (1) 活用可能な助成・制度等
- (2) ロードマップ

川湊・石巻を未来へつないでいくために

川湊として発展してきた石巻。

幾度となく訪れた危機を乗り越え、川湊としての歴史、文化、人々の営みを現代までつなぐことができたのは、そこに住み、暮らす「地元の人々」の石巻に対する心意気があったからです。

人々の熱源となったのは石巻を川湊たらしめた母なる北上川であり、そのエネルギーはまちなかに集積していました。

そして、その心意気に惹かれこの地に関わりを持つようになった「よそ者」の挑戦が加わることによって「新たな価値」が生み出されてきました。

石巻を後世に誇れるまちとしてつないでいくために、私たちは川湊の原点に立ち返ってまちづくりを進めます。

それは、川湊としての歴史や強みを再認識し、震災以降関わりを得た内外の人々との関係性を活かし、「新たな価値」を生み出すことです。

川、食、マンガ、音楽、震災伝承、カルチャーなど、新たな価値を生み出すためのヒントが、まちなかにはたくさんあります。

この未来ビジョンは、石巻に住む私たちや石巻に関わるようになった人々が、改めてまちなかの魅力を再認識し、その魅力を活かした新たな場所や機会をつくりだすことで、未来にわたって誇りある石巻を残していくための道標です。



第1章

未来ビジョンの策定にあたって

(1) 石巻まちなかエリア未来ビジョン策定の目的と範囲

未来ビジョンの目的

- ✓ 石巻まちなかエリア未来ビジョン（以下、「未来ビジョン」という）は、エリア内で活動する事業者や行政、中心市街地のまちづくりに興味のある方々が「こんなまちにしていきたい」という想いを**実現するために、**

●目指すべき将来像

●今後進めていくべき取組（リーディングプロジェクト）

を定めるものです。

未来ビジョンの範囲

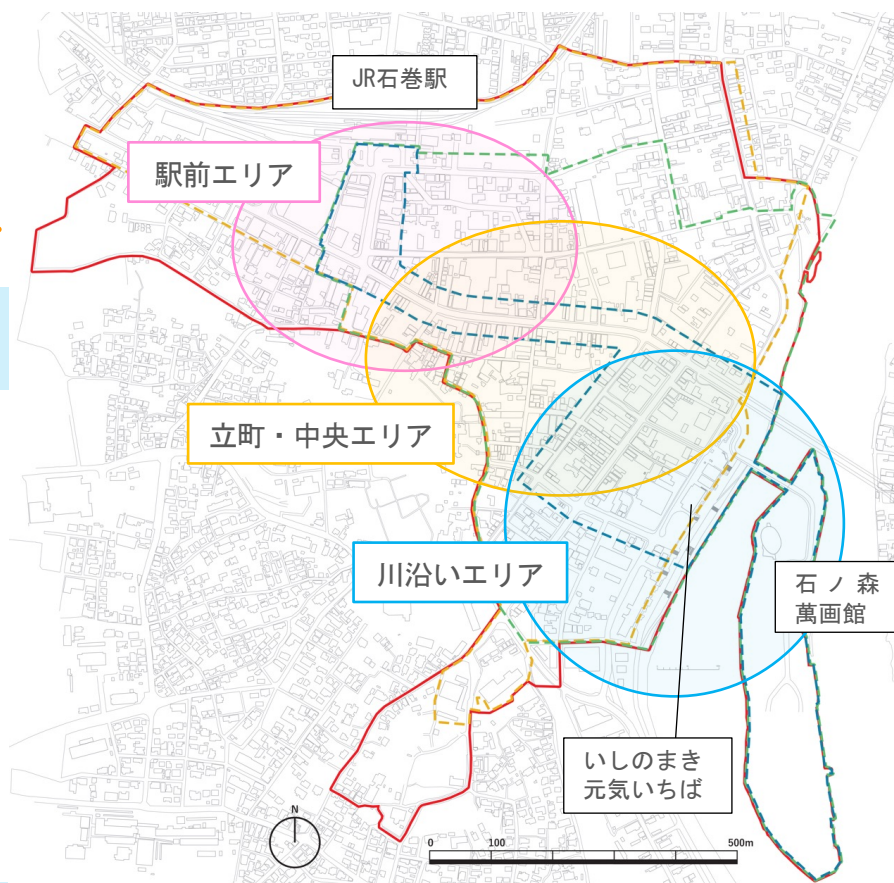
- ✓ サービス拠点形成エリア〔都市機能誘導区域（立適）〕や都市再生整備計画区域、滞在快適性等向上区域を包含する概ね中心市街地の区域（中心市街地活性化基本計画の区域に準ずる）を未来ビジョン及びエリアプラットフォームの範囲とします。
- ✓ 石巻市中心市街地活性化基本計画に示されている3つのエリアを踏まえて整理しています。

3つのエリアの震災後の取組

川沿いエリア 市内外から訪れる方の滞在拠点として、堤防整備と合わせいしのまき元気いちばや立体駐車場などを整備しました。

立町・中央エリア 市街地再開発事業や復興公営住宅整備事業により、住宅や商業施設を整備しました。

駅前エリア 市立病院などの公共施設を集約化し、市民が公共交通機関などを利用してサービスを受けられる環境をつくってきました。



〈凡例〉

■ 中心市街地活性化基本計画区域（ビジョン及びエリアプラの範囲）

■ サービス拠点形成エリア〔都市機能誘導区域（立適）〕

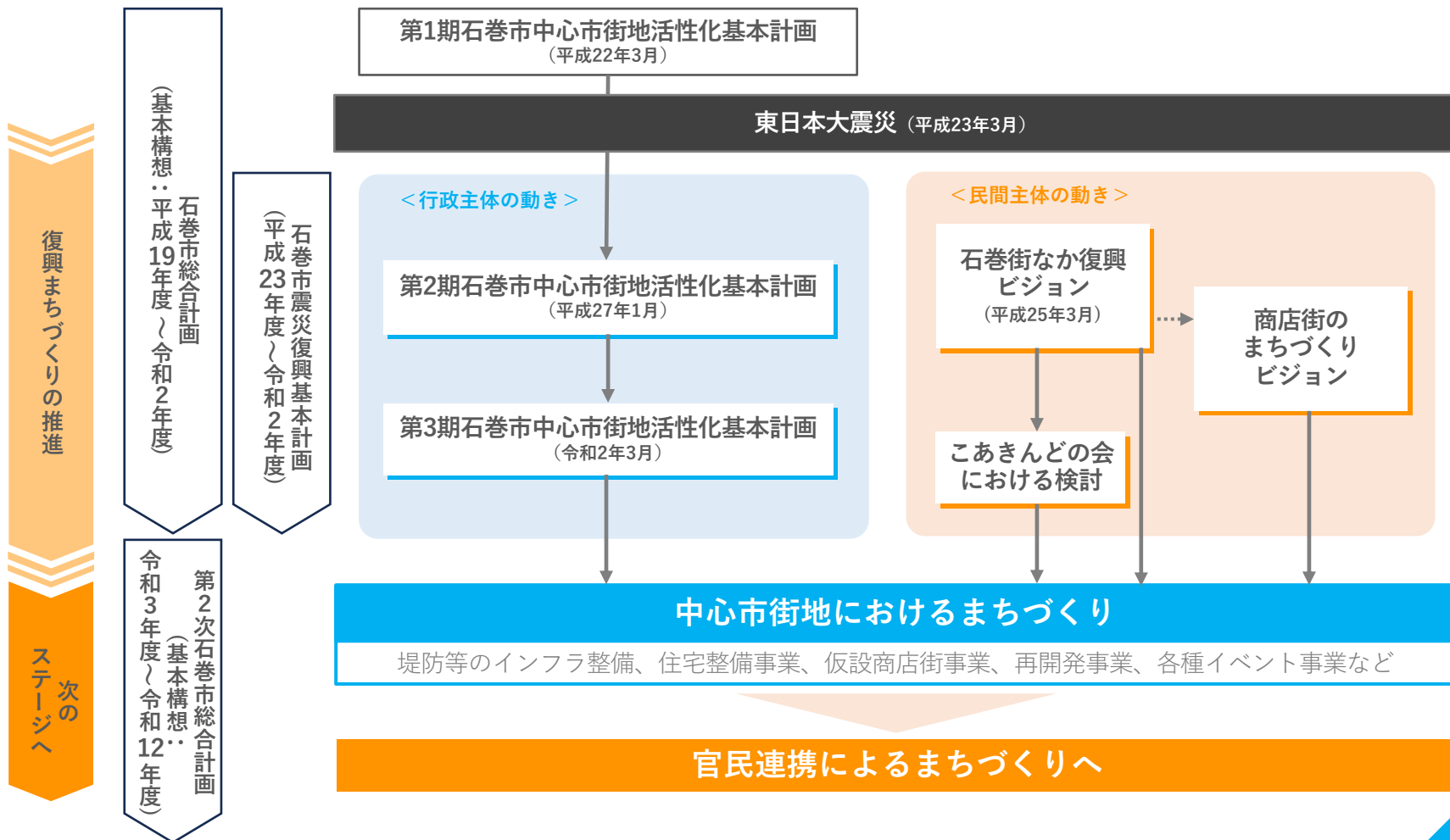
■ 都市再生整備計画区域

■ 滞在快適性等向上区域（まちなかウォークブル区域）

※各エリアの範囲を明確に区切るものではなく、区域を超えて行われる取組もあります。

(2) 中心市街地におけるまちづくりの経緯

- ✓ 中心市街地では、東日本大震災後は復興事業を中心にインフラや住宅整備等のまちづくりが進み、中心市街地活性化基本計画は第3期まで作成しています。（2025年4月～第4期計画の進行に向け内閣府に認定申請中）
- ✓ また、民間主体によるビジョンづくりや若手商店主らによるまちづくりについての検討の場が設けられ、仮設商店街の運営やイベント事業などが行われてきました。

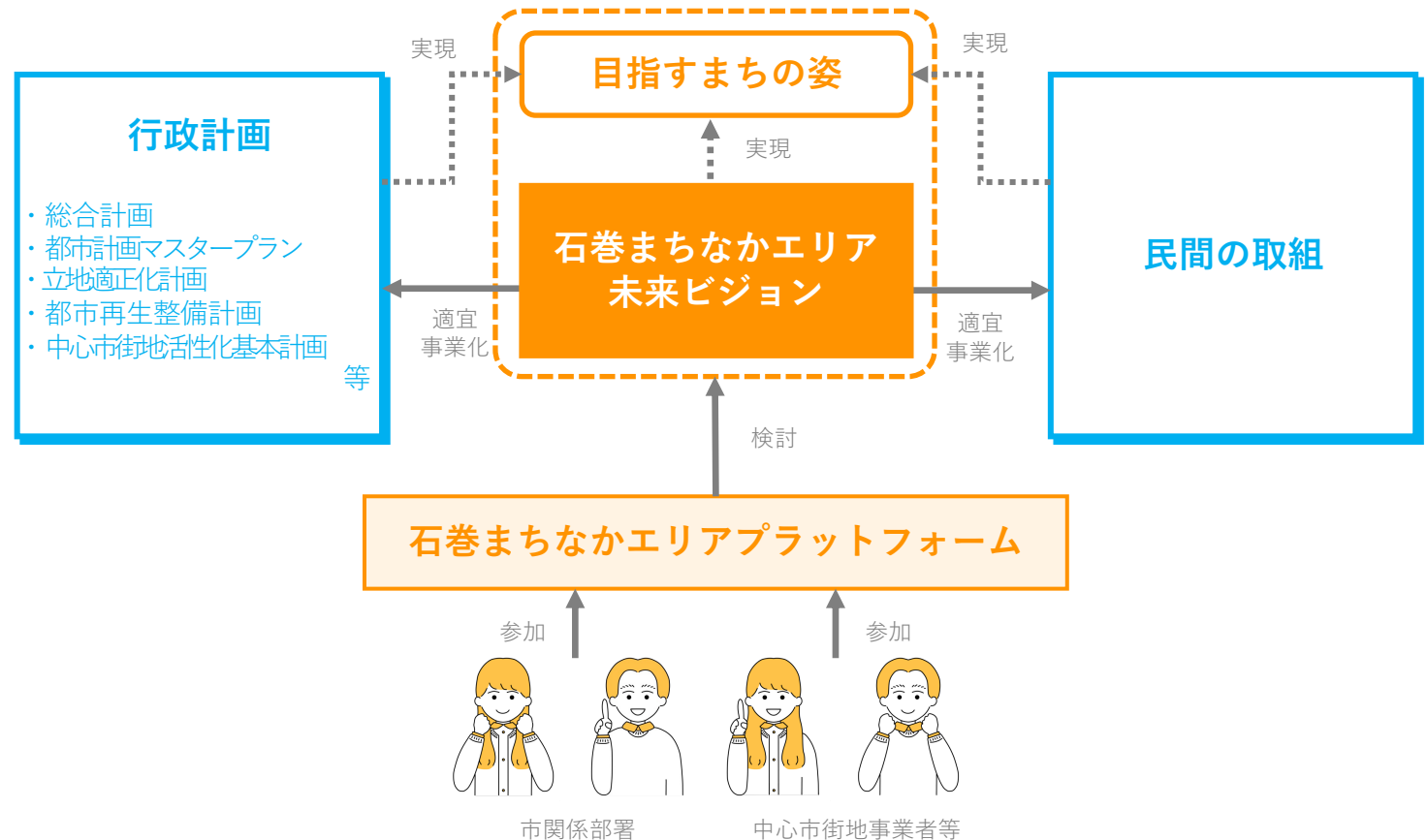


第1章

未来ビジョンの
策定にあたって

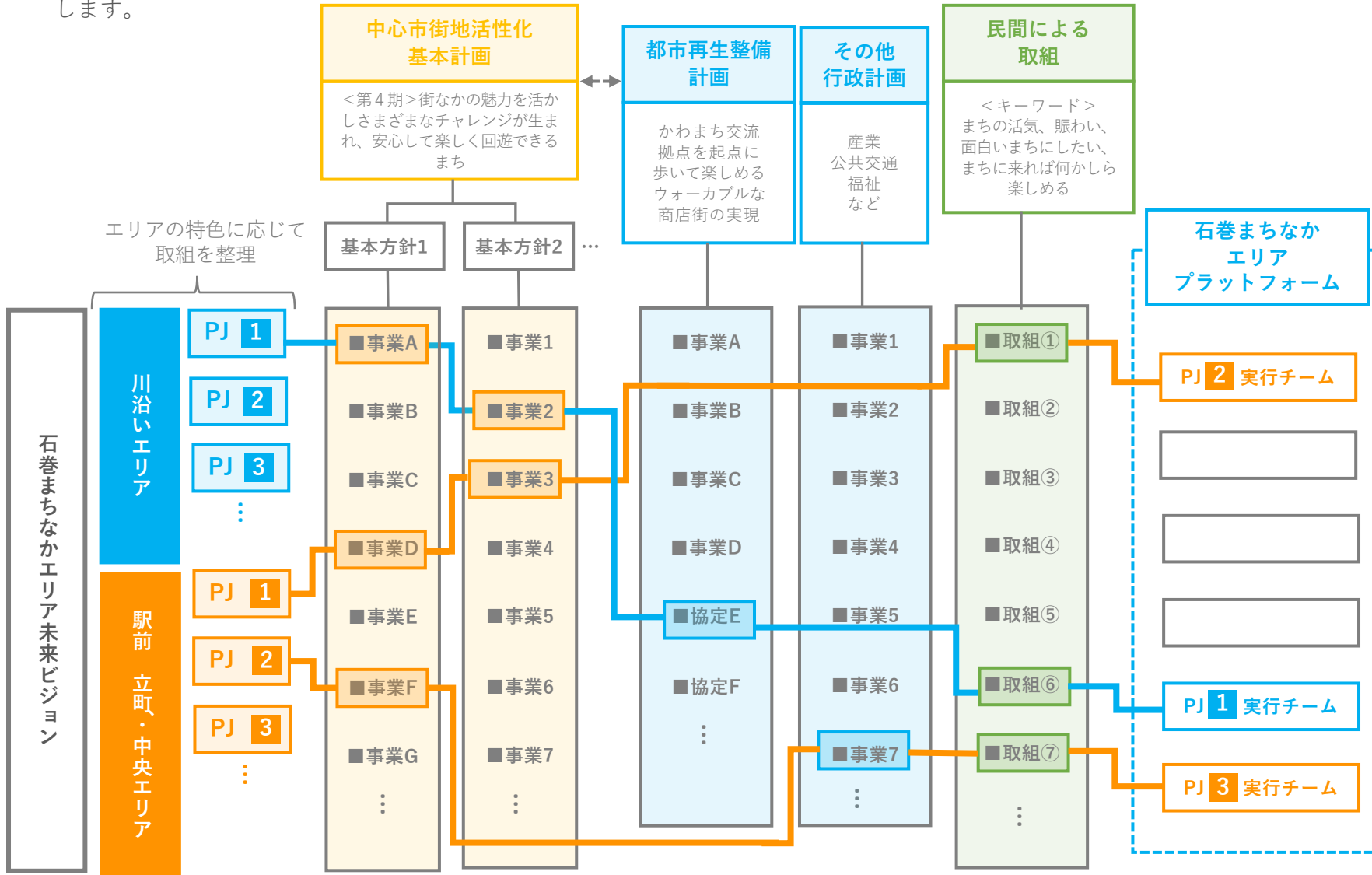
(3) 石巻まちなかエリア未来ビジョンの位置づけ

- ✓ 未来ビジョンは、行政と市民・民間事業者の官民連携により作成したまちなかの活性化に向けた“羅針盤”となるものです。
- ✓ 行政で定める各種計画との整合性を図りつつ、行政と市民・民間事業者の協働のもと進めます。
- ✓ 「目指すまちの姿」の実現に向け、未来ビジョンを羅針盤に、行政は各種計画に具体的な取組を位置づけながら実施していくとともに、民間事業者等も取組や協議を実施していきます。



(4) 石巻まちなかエリアプラットフォーム及び未来ビジョンの役割

✓ また、エリアプラットフォーム及び未来ビジョンは各種行政計画に基づく取組や民間の取組をつなぎ横串をさす役割を果たします。



石巻
まちなかエリア
未来ビジョン

第1章
未来ビジョンの
策定にあたって

石巻まちなかエリア未来ビジョン

川沿いエリア
駅前・中央エリア

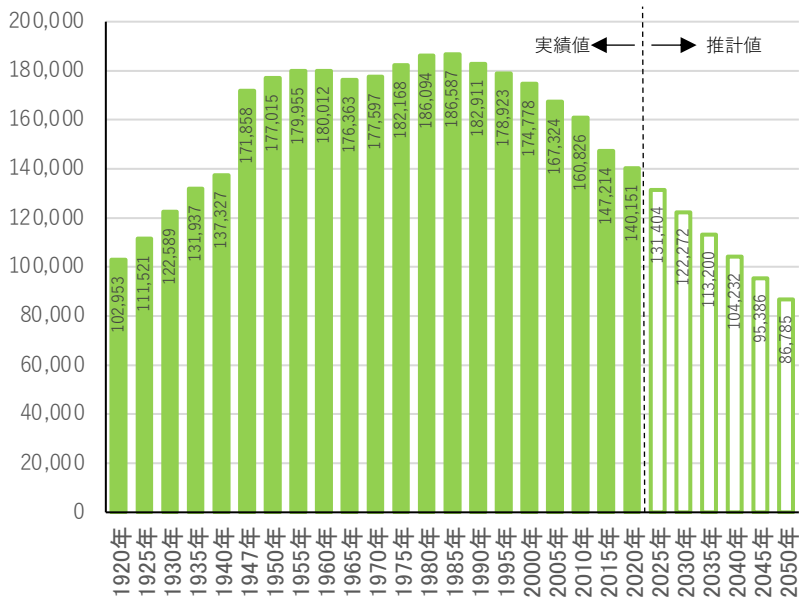
第2章

石巻まちなかエリアの基本情報

(1) 人口の推移

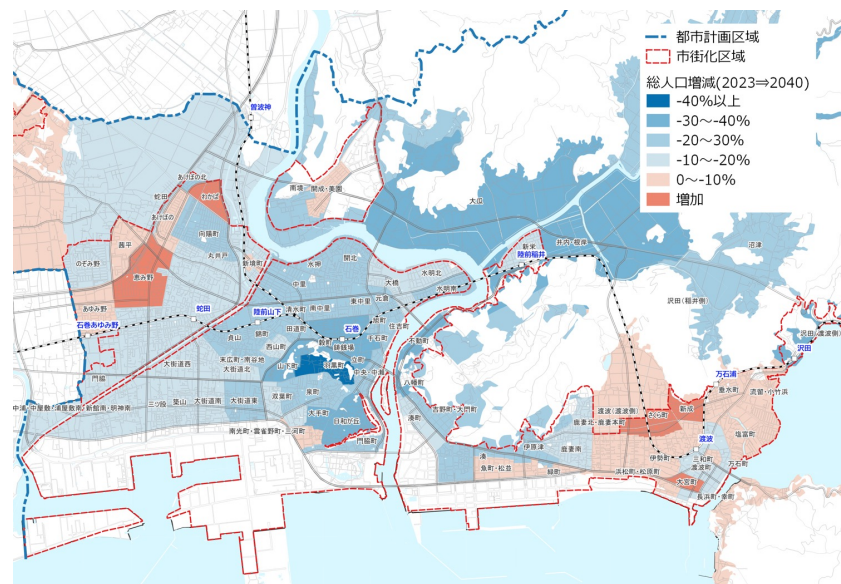
減少する中心市街地の人口

- ✓ 昭和60（1985）年をピークに石巻市全体の人口は減少傾向にあり、今後20年で人口はおよそ30%減少すると予想されています。
- ✓ 中心市街地及び周辺における人口減少は新市街地エリア（新蛇田や新渡波等）に比べて急速に進むとされ、このままだと日用品や生鮮品を扱う業種の店舗経営や商店街・町内会活動の継続が厳しくなると考えられます。



※2020年以前は国勢調査、2025年以降は社人研推計値

■ 石巻市の人口推移



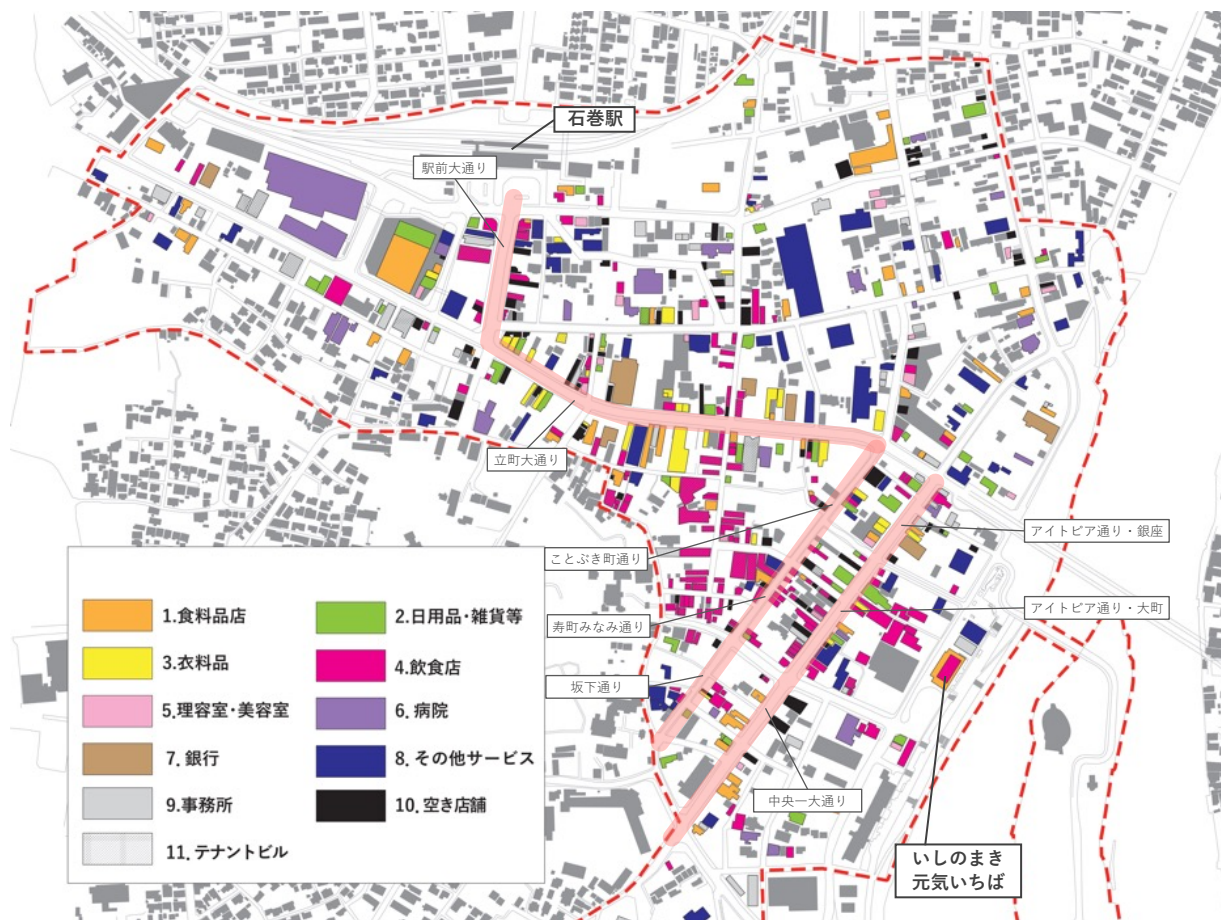
石巻市 提供

■ 2040年までの石巻市中心部各地区における人口増減

(2) 店舗の立地状況

エリアによって異なる店舗の立地

- ✓ 石巻駅から川沿いエリアまでの立町大通りやアイトピア通り・銀座沿いには、食料品や日用品、衣料用品を扱う店舗が多く並んでいます。
- ✓ 駅前大通り、アイトピア通り・大町、寿町みなみ通りでは飲食店の立地が多く見られます。



■ 中心市街地における業種ごとの店舗の立地 (2024年7月時点)

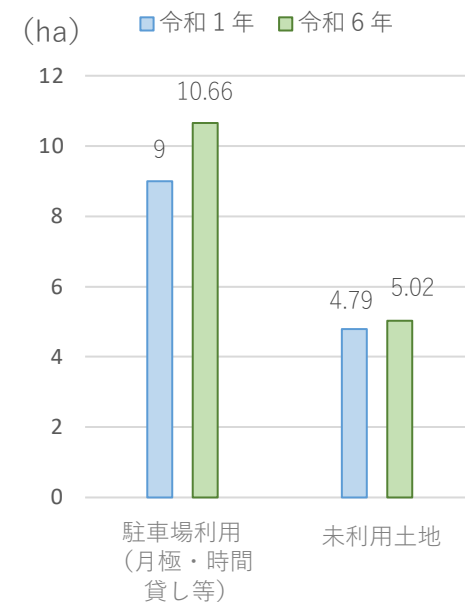
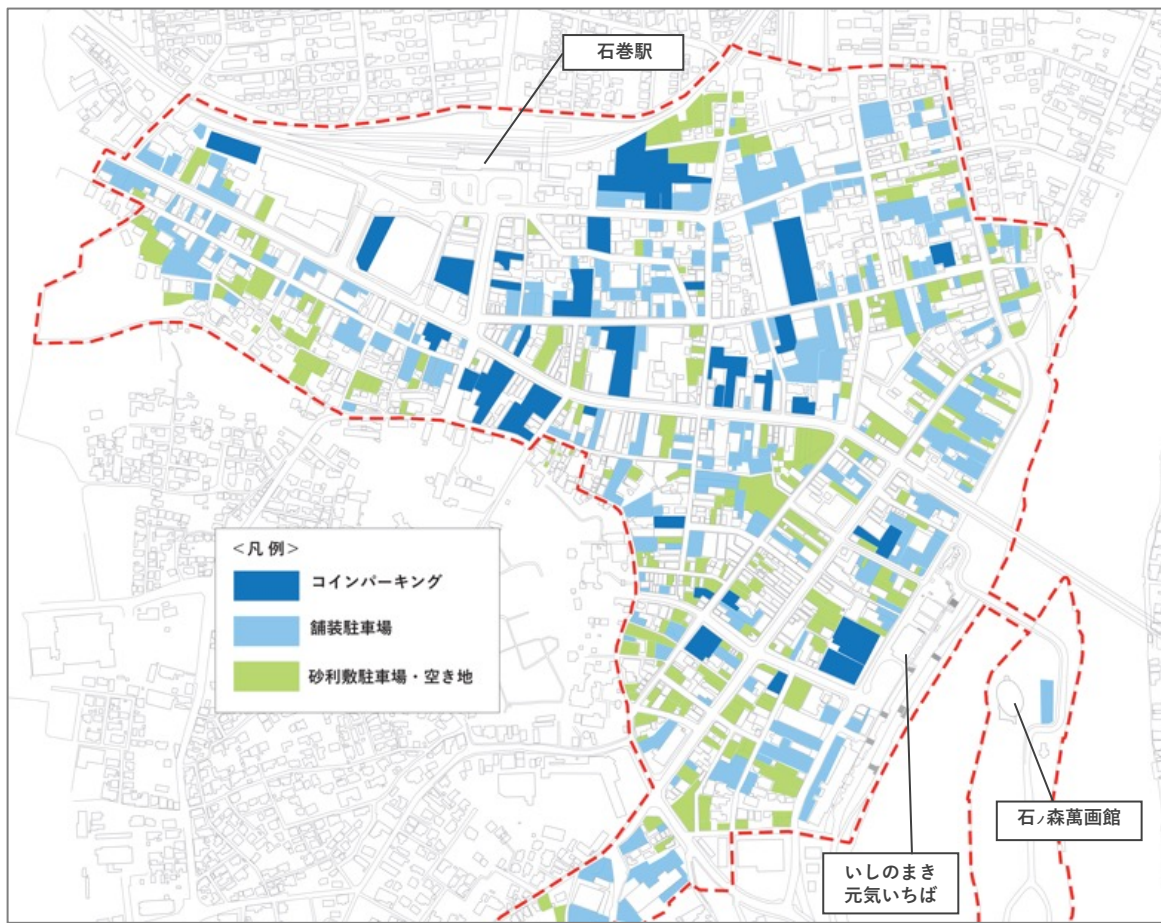
第2章

石巻まちなか エリアの 基本情報

(3) 低未利用土地や駐車場の立地状況

低密に広がる中心市街地

- ✓ 中心市街地におけるコインパーキングと低未利用土地(空き地等)の立地状況についてみると、比較的大きな敷地がコインパーキングや舗装された駐車場となっている一方で、間口が小さく面積の小さい敷地が砂利敷駐車場となっています。
- ✓ 駅前、立町・中央エリアにおいては、川沿いエリアに比べコインパーキングや舗装された駐車場が多く立地しています。

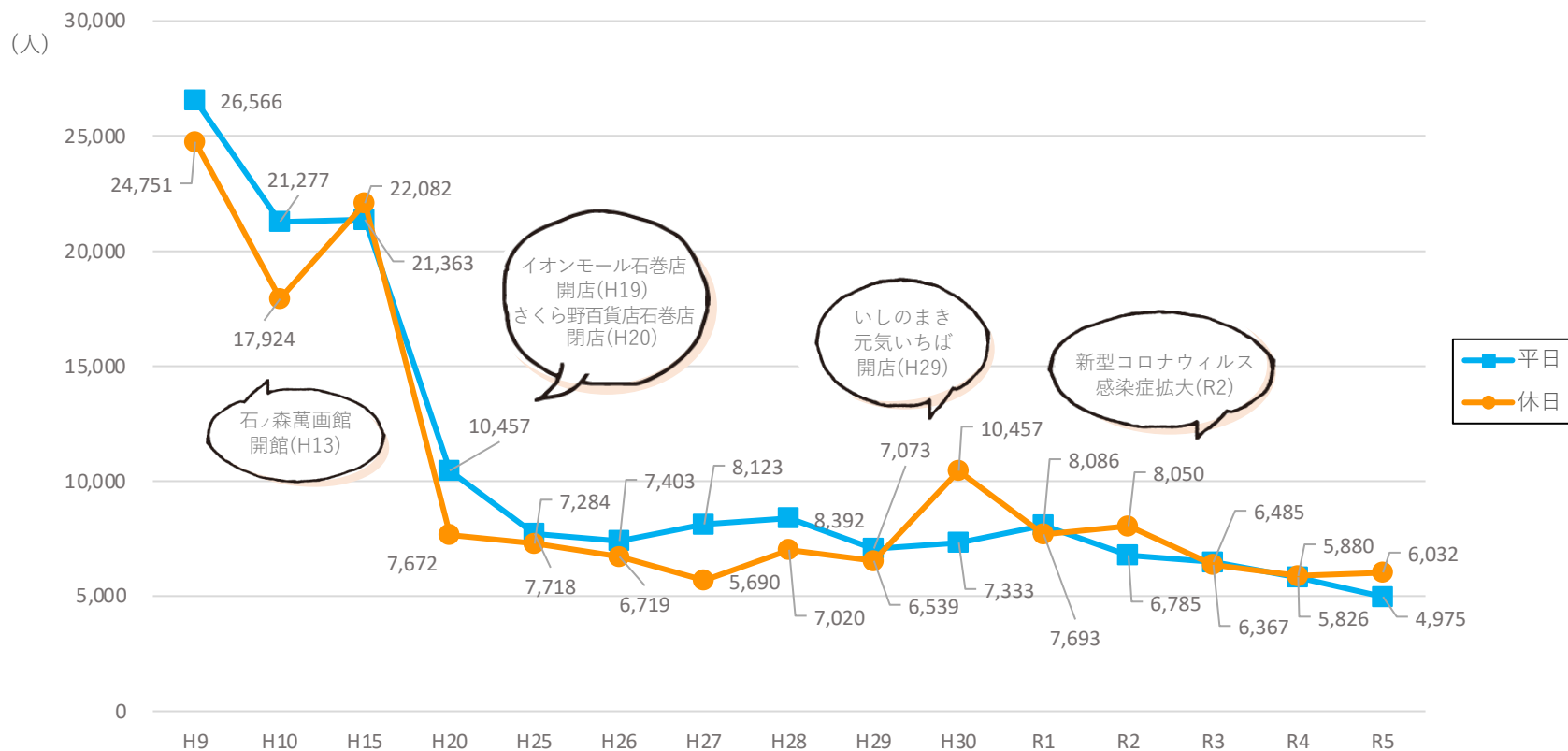


- ✓ この5年間で駐車場利用が増加しています。
- ✓ 中心市街地(約56.4ha)における低未利用土地の割合は約27.8%(約3割)となっています。

■ 中心市街地における低未利用土地と駐車場の立地 (2023年12月時点)

(4) 歩行者及び自転車通行量

中心市街地の歩行者及び自転車通行量は平日・休日ともに微減傾向

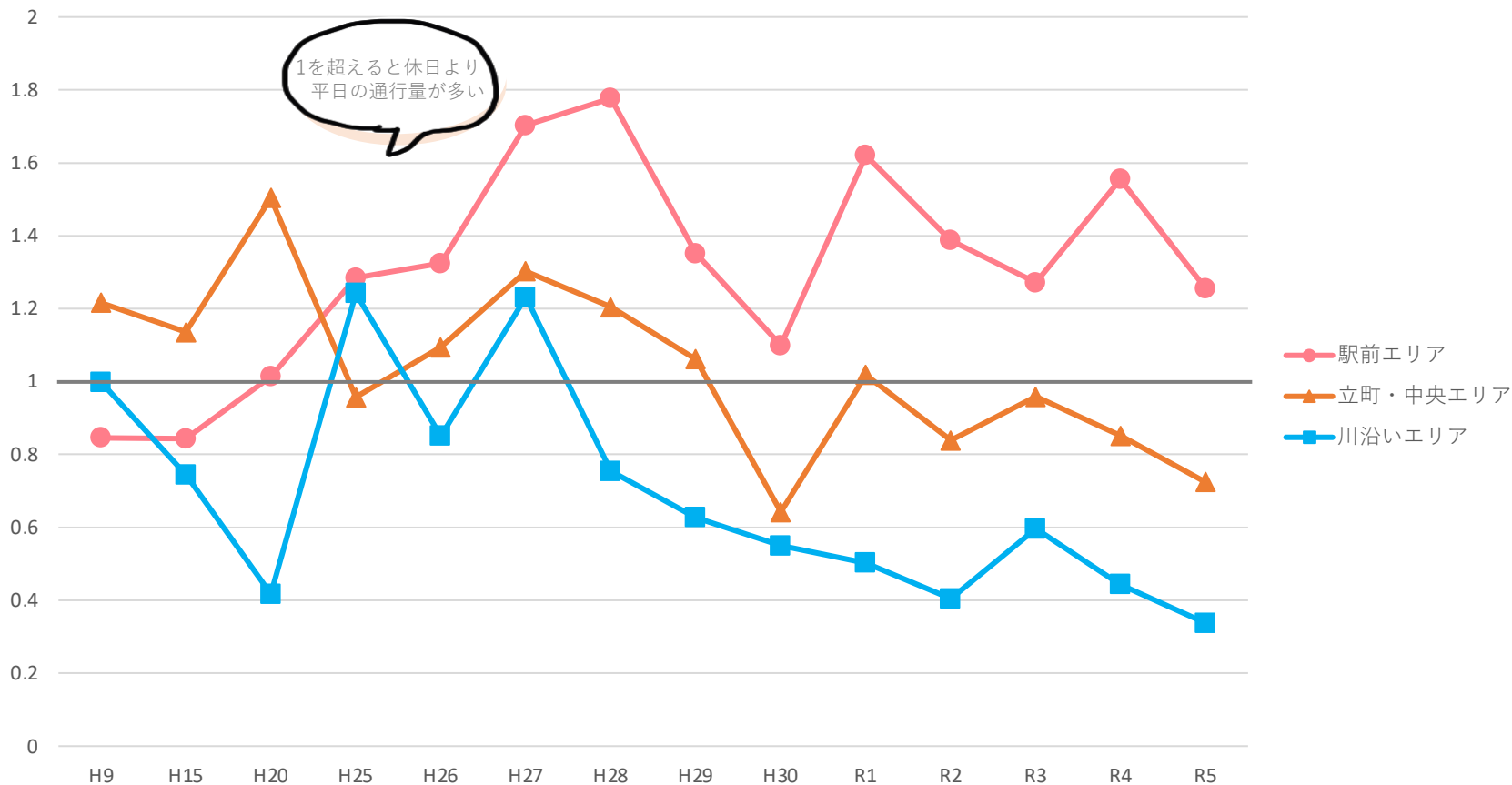


■ 中心市街地12地点における歩行者及び自転車通行量

- ✓ 石巻駅前の百貨店が閉店し、郊外に大型店が集積し始めた平成19年頃から中心市街地の歩行者及び自転車通行量は急激に減少しました。
- ✓ 近年は、いしのまき元気いちばの開店などもあり休日の通行量が増加していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少傾向にあります。

(5) 3つのエリアにおける平日・休日の歩行者及び自転車通行量の割合

駅前エリアは平日が多く、立町・中央、川沿いエリアは休日が多い



■エリアごとの平日／休日の歩行者及び自転車通行量の割合

- ✓ 駅前エリアでは、平成20年以降は平日の通行量が多くなっている一方で、立町・中央エリアや川沿いエリアでは、近年は休日の通行量が多くなっています。

(6) 川沿いエリアの来訪者の特徴

5つの来訪者パターン

いしのまき元気いちばを訪れた方へのアンケート調査から以下のことがわかっています。

- ✓ 訪れている方の年代に大きな偏りは見られませんでした。
- ✓ 市内から訪れている方は全体のうち23%、県内から訪れている方は40%、県外から訪れている方は37%でした。
- ✓ いしのまき元気いちばを訪れる前後で中心市街地に立ち寄った方の割合は39%でした。
- ✓ 訪れた方の年代と住んでいる場所から川沿いエリアを訪れている人は主に下の5つのパターンに分けられます。



パターンA

いしのまき元気いちばや近隣店舗など日常的な買い物を目的



パターンB

いしのまき元気いちばでの買い物のみを目的



パターンC

いしのまき元気いちばや郊外店舗など買回り品の買い物を目的



パターンD

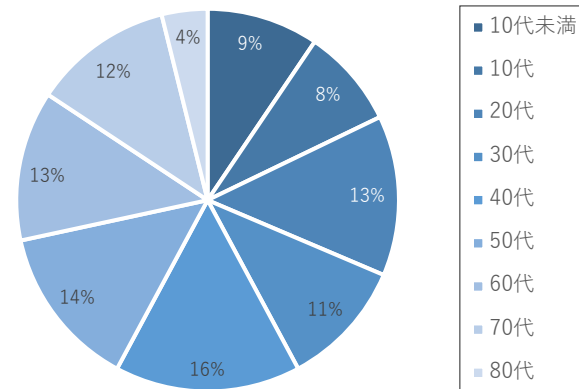
石ノ森萬画館や近隣飲食店など近隣・周辺での観光を目的



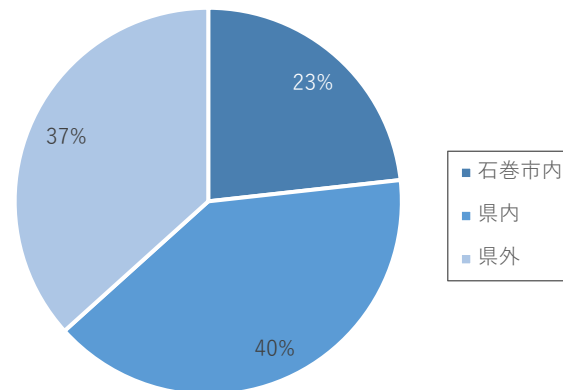
パターンE

松島、岩手（平泉）など広域での観光を目的

■ いしのまき元気いちばを訪れる人の年代



■ いしのまき元気いちばを訪れる人の居住地



調査対象者	いしのまき元気いちば来店者
調査方法	店内にて対面式アンケート調査
調査期間	令和4年8月10日～8月16日
回収数	469名
実施主体	東北学院大学櫻井研究室

第2章

石巻まちなか エリアの 基本情報

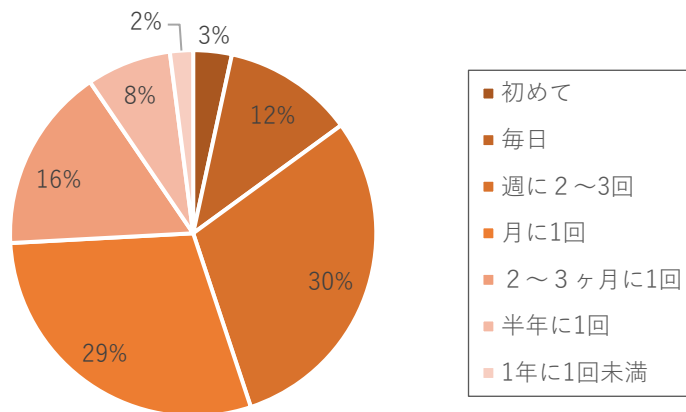
(7) 立町・中央エリアの来訪者の特徴

来訪者パターン

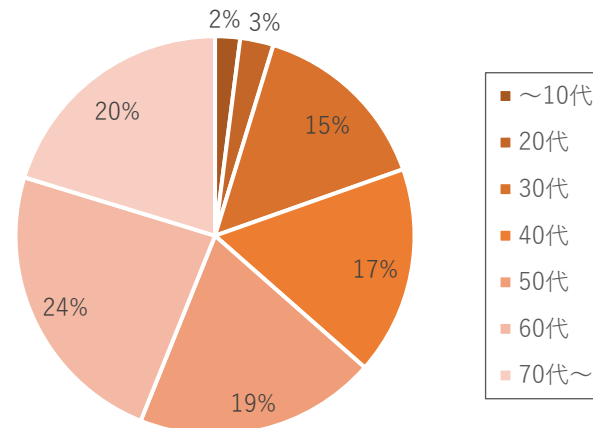
立町大通り商店街を訪れた方へのアンケート調査から以下のことがわかっています。

- ✓ 60代以上の方が全体の4割を占め、市内からの方が全体の8割以上、週に2～3回以上利用する方が4割を占めていました。
- ✓ いしのまき元気いちばは市外から訪れる方が多かったのに対し、商店街では近隣・周辺にお住まいで日常的に利用される方が多い傾向であることがわかりました（いしのまき元気いちばでのアンケート結果より）。

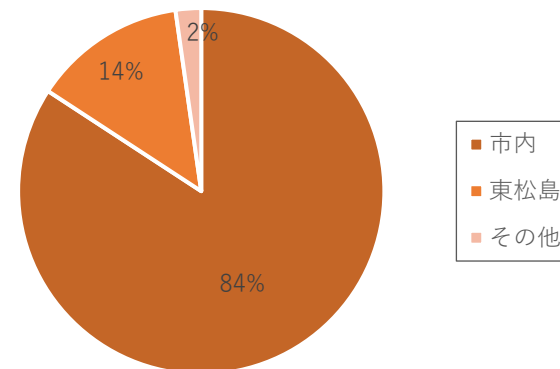
■ 立町大通り商店街を訪れる頻度



■ 立町大通り商店街を訪れる人の年代



■ 立町大通り商店街を訪れる人の居住地



調査対象者	立町大通り商店街スタンプラリー参加者
調査方法	抽選会場にて対面式アンケート調査
調査期間	令和4年12月16日～12月18日
回収数	150名
実施主体	立町大通り商店街振興組合、株式会社街づくりまんぼう

(8) 中心市街地で起こっている現象

川沿いの賑わいをエリア全体へ

- ✓ 中心市街地では活性化に向けたさまざまな取組が行われてきたことにより、川沿いエリアを中心に歩行者や自転車通行量の増加が見られるようになりました。
- ✓ しかしながら、コロナ禍や物価高などの社会情勢の厳しさもあり、中心市街地全体で賑わいが生まれているとは言えない状況です。
- ✓ 市全体の人口減少が進むとともに商店街を訪れる方の数も減少傾向にある状況では、まちなかへ新たな事業者を呼び込む必要があります。

人（居住者、買い物客、通行量）が少なくなる



お店が少なくなる



空き店舗や空き地が増え魅力が少なくなる



人（居住者、買い物客、通行量）が少なくなる

第3期中心市街地活性化基本計画など

- ・ イベントによる賑わいづくり
- ・ 商店街の情報発信
- ・ 空き店舗対策事業 など



川沿いエリアを中心に賑わいが生まれつつあるが
中心市街地全体にまでは及んでいない



この状況から脱却するために、

まちの良いところを残しつつ、チャレンジしやすい環境をつくり
新たな“まちの人たち”を呼び込み増やしていく！

第3章

目指すまちの将来像

(1) 検討の経緯

✓ 未来ビジョンの作成にあたっては、駅前、立町・中央、川沿いエリア内の事業者の方々を中心に「かわまちエリアマネジメント検討会」を設立し、令和3年度から令和5年度まで検討を行ってきました。

かわまちエリアマネジメント検討会

目的：石巻かわまちエリア（都市再生整備計画区域）を中心に、まちなかの将来像やその実現手段、持続的なまちの運営手法等について行政及び市民・民間事業者によって検討を行う。

構成員：それぞれのエリアにおいて未来ビジョンの検討に密接に関係すると考えられる市関係部署及び民間事業者。

川沿い部会

駅前・立町・中央商店街部会

川沿いエリア編の検討

令和3年度	現状把握・将来像をイメージ	第1回(7/14)、第2回(8/17)
	方針の検討、具体策の洗い出し	第3回(9/14)、第4回(10/12)、第5回(12/22)
令和4年度	社会実験の検討・実施	第1回(6/29) 社会実験(10/8-9)
	リーディングプロジェクトの検討	第2回(12/21)、第3回(1/18)
	未来ビジョンの提示・検討	第4回(2/15)、第5回(3/15)

駅前、立町・中央エリア編の検討

令和5年度	現状把握・将来像をイメージ	第1回(6/23)、第2回(7/20) グループインタビュー(8/20-25)
	社会実験の検討・実施	第3回(8/31) 社会実験(10/28-11/10)
リーディングプロジェクトの検討	第4回(9/13)、第5回(9/25) 個別ヒアリング(12/11-1/18)	
未来ビジョンの提示・検討	第6回(1/23)	

令和5年度

未来ビジョン(全体版)の提示・説明

全体会(3/19)

石巻かわまちエリア未来ビジョン(案)とりまとめ

(1) 検討の経緯

✓ 令和6年度は「エリアプラットフォームの設立」及びエリアプラットフォームとしての『未来ビジョン』の策定に向け、勉強会やワークショップ等を開催し、昨年度までとりまとめてきた未来ビジョンのブラッシュアップを行ってきました。

石巻かわまちエリア未来ビジョン（案）

↓ 官民によるまちづくりの意識醸成

エリプラ設立に向けた検討

エリプラ設立の意義と役割	第1回(9/30) 講師：山口大学大学院教授 宋俊煥氏
まちづくりへの関わり方・市民の意識醸成	第2回(10/27) 講師：横浜国立大学大学院准教授 野原卓氏 第3回(10/3),第4回(11/2)※W.S. 講師：半田市中心市街地活性化 市長特任顧問 伊藤大海氏
エリプラの設立	1/9 設立総会

↓ 未来ビジョンのブラッシュアップ

未来ビジョン策定に向けた取組

リーディングプロジェクトの具体化	第5回(11/25) 講師：武蔵野大学教授 國廣純子氏
	第6回(12/16) 講師：たじみDMO COO 小口英二氏 第7回(1/13) ※W.S. 講師：いわき市平三丁目商店会 北林由布子氏
まちなかのチャレンジャーとの対話	第8回(2/3)※ディスカッション まちなかに新規出店した事業者 講師：たじみDMO COO 小口英二氏

未来ビジョンの提示・説明
まとめの会 (3/2)

石巻まちなかエリア未来ビジョンの策定 (R7/3/26総会)

令和6年度

(2) 暮らす人たちの思い

普段あまり商店街を訪れない世代へグループインタビュー

—どんな人たちの声を聞いてみたいか？—検討会で挙げられたのは普段あまり商店街を訪れない中学生や高校生、子育て世代。グループインタビューの結果、「気になるお店はあるけれど入りづらい」、「自分たちの好きなことができる場所があるといい」といった声を聞くことができました。



第3章

目指す まちの将来像

【インタビューの主な結果】

日常の買い物

- ✓ 年代・居住地によらず近場のスーパーやドラッグストア
- ✓ イオン石巻駅前店は時々利用する
- ✓ 元気いちばは日常の買い物やお土産を買う場所

大事にしているもの

- ✓ 自分の好きなことや趣味に時間とお金をかけたい
- ✓ 子育て世代にとっては子どもが第一であるが、自分の好きなことも充実させたい
- ✓好きなことを通じて知り合いを増やしたい

まちなかのイメージ

- ✓ 飲食店やお肉屋など気になるお店はある
- ✓ 駐車場が利用しにくく、店舗も入りにくい印象

まちなかに望むもの

- ✓ 買い物をしなくても気兼ねなく過ごせる場所
- ✓ 自分の趣味や興味ある分野で繋がりを広げられる場
- ✓ 中学生、高校生、大学生からは「駅前に本屋が欲しい」など

まちなかにサード
プレイスが
あるといいかも？



(2) 暮らす人たちの思い

まちの人たちが思う“理想の石巻暮らし”

—理想の石巻の暮らし方とは？—検討会メンバーでイメージを出し合ったところ、自然、食、マンガ・アート、カルチャーなどたくさんのキーワードが出されました。魅力が多くて絞れないのが石巻。未来ビジョンでは、あえて絞ることはせず、それぞれの暮らしを実現するため、また、それぞれの魅力を伸ばしていくために必要なことを考えていきます。

マンガ・カルチャー に触れられる

まちなかでコスプレやコミケ

こだわりの逸品

居場所や出会いが ある

いろいろな人と繋がる

立ち寄りたくなる場所

便利で楽しい

車を使わなくていい生活

欲しいものが手に入る

新たなチャレンジが できる

好きなことを極める

応援してくれる人がいる

自然を体験できる

川で釣りができる

半島へツーリング

安心できる

子どもが外で遊べる

災害時に安全に避難

食を楽しめる

季節を感じられる

いつでも美味しいものを

美しい街並みが ある

歩きたくなる街並み

(3) 石巻かわまちエリア社会実験

社会実験等について

- ✓ より多くの方が石巻かわまちエリアを訪れ、滞在や歩いて回遊してもらうためには何が必要かを明らかにすることを目的に社会実験やアンケート調査を行いました。

令和4年度社会実験及びアンケート調査の概要

【期間】 令和4年5月～10月のイベント開催日（アンケート調査）
令和4年10月8日(土)～10月9日(日)（社会実験）

【目的】 イベント時に橋通りを訪れる方の属性や滞在空間として求めるもの、川沿いエリアにおける広場とマンガコンテンツの有用性を明らかにする。



橋通りイベントでのアンケート調査

- ・ ハッピーサンドフェスティバル< R4/5/22 >
- ・ 橋通り夜店< R4/7/30~31 >
- ・ トリコロレ音楽祭< R4/8/28 >
- ・ 石巻まちなか文化祭< R4/10/8~9 >
にて来訪者に対しアンケート調査を実施



マチカド広場

「石巻まちなか文化祭」に合わせて橋通りの空き地を休憩スペースとし情報発信や飲食提供を行う。来場者のどのように行動するかを調査。



川沿いエリアにおける広場のニーズを確認



- ✓ 来場者へのアンケート調査から、カフェ・休むところ・子どもの遊び場が求められていることがわかり、社会実験として実際に広場を設けたところ滞在時間の向上につながることがわかりました。

(3) 石巻かわまちエリア社会実験

令和5年度社会実験の概要

【期間】 令和5年10月28日(土)～11月10日(金)

【目的】 検討会で出されたまちづくりのアイデアを実際に実施してみることで、プロジェクトの立案に向けたヒントを得る。

駅前テラス (旧ロマン海遊)

電車やバス利用者が休んだり本を読んだり、食事をするができる場所を設けてみる。



サルコヤ前広場

商店街沿いの空き地で焚き火をしてみる。通りかかった人が休憩できる場所を設けてみる。



駅前のポテンシャルと商店街の空き地利用の課題を確認

- ✓ 駅前では、バスの待ち時間や通勤通学時などに飲食や休憩に利用したいというニーズがあることを確認することができました。
- ✓ 商店街沿いの空き地では、体験型の催しがあると人の滞在が生まれるが、自動車通行量が多く危険が伴うことなどから、日常的な利用には至りにくいということがわかりました。

ちょっと寄っていきませんか?

石巻まちなか社会実験2023

「暮らしが楽しくなるまちなか」を目指し、「まちなか」にあったら良いなと思う空間づくりの社会実験を行います。この実験結果は、次年度以降のまちづくりに活用されます。ぜひ利用してみてください!

開催期間 10/28(土) ▶▶ 11/10(金)

時間 10:00 - 17:00

会場 01 石巻駅前テラス
駅前立ち寄り休憩ができる広場が出現します。電車の待ち時間や待ち合わせにご利用ください。
場所：石巻駅前・旧ロマン海遊の広場

会場 02 サルコヤ前広場
まちなかの空き地にミニ広場が出現します。イベントやまち歩きのお楽しみ場としてご利用ください。28日(土)・29日(日)には、パロウインに合わせた企画も開催されます!
場所：駅前通りとことば通り交差点にある回生スペースの広場

※キッチンカー・出店など、日によって異なる企画が実施されます。詳しくは公式ホームページをご覧ください。

注意事項

- ・社会実験期間中、利用状況を調査するためビデオカメラを設置しますので予めご了承ください。
- ・雨天において参加人数を限定することはありません。
- ・雨天時や気温低下などは予定が変更となる場合があります。

主催 石巻かわまちエリアマネジメント検討会
(事務局：石巻市まちづくり推進部)

企画 石巻市建設都市計画課
(後) 街づくりまんぼう
(石巻かわまちエリアの都市再生に係る社会実験実施推進委員会)

(4) 豊かな石巻暮らしに向けて

ワークショップの概要

■ 令和6年11月2日(土) ■ 講師：伊藤大海氏（中小機構アドバイザー／半田市中心市街地活性化市長特任顧問）

【目的】これまで進めてきた会議でのアイデアを実際に自分たちの手で創り出す、踏み出すにはどんなヒントがあるか？



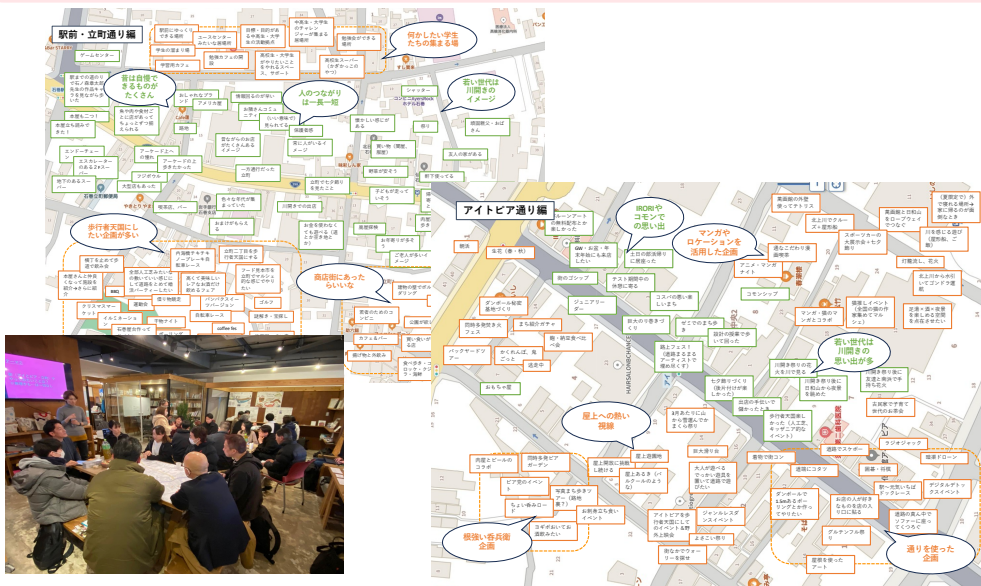
- ✓ まちへの関わり方は人それぞれですが、内発的動機（関わりたいと思える楽しいこと、等）が持続的なまちづくりにつながるということがわかりました。
- ✓ ワークショップでは豊かな石巻暮らしへのヒント（気づき）として
 - ☆ 出会いや交流、発見があること
 - ☆ ゆるやかな繋がり、ゆるやかな時間があること
 - ☆ チャレンジできる雰囲気があること
 を、求めていることがわかりました。

第3章

目指す まちの将来像

■ 令和7年1月13日(月・祝) ■ 講師：北林由布子氏（いわき市平三丁目商店会／ゲストハウスfaro・La stanzaオーナーシェフ）

【目的】それぞれの居場所づくりについて考え、実際に地図に自分たちの思うように描いてみる



- ✓ これまで、まちなかで関わりたいことややってみたいことのアアイデア（妄想）ワークショップを重ねてきましたが、そこに場所性が加わると、また新しい視点が湧いてくるということがわかりました。
- ✓ 特に、屋上や通りを使った新たな企画が出来ないかという意見が出たことや、歩行者天国、学生の居場所づくりなどの意見は引き続き根強かったです。
- ✓ ワークショップを重ねることで自分事化し、気づいたらまちに関わっている、いつの間にかまちのプレイヤーになっている、そんな情報発信が必要であることがわかりました。

(5) 目指したいまちの姿

“関わりしろ”のあるまちへ

誰にとっても居心地の良い場所があり、歩き楽しめるまちづくりを

“関わりしろ”があるとは、誰にとっても居場所が生まれる余地・余白があること。

市民も周辺に住んでいる人も、観光客も、仕事で来た人も、誰でもふらっと訪れて楽しめる。

お気に入りのお店や人にすすめたい景色が見つかる、好きなことに取り組める場や仲間に出会える。

それぞれがホッとできたり、わくわくしたり、居心地良いと感じられる場所が気づくとある、誰もが気軽につくることができる“関わりしろ”のあるまちを目指します。

誰もがまちに関われる機会を増やし、魅力あるまちへ

居心地が良い、行きたいと思える魅力ある場所をつくる

まちに関わる人、まちを訪れる人が増える

まちの魅力が高まる

お店や施設が増える



(6) 目指したいまちの実現に向けて

行政と民間が連携して取り組むことがマスト！

せっかく描いた取組が「結局それって誰がやるの？」で止まってしまうないようにします。まちづくりを商店街の人たちだけや行政だけでやっていくのは困難な時代。行政や商店街に加え、市民や時に市外の人たちが進んでさまざまな取組を具現化できる環境をつくっていきます。

まちの人たちの心得

●商店街は一つの大きなお店

- ✓ まちを訪れた人の中には、商店街を一つのお店と感じる人もいます。商店街そのものが自分たちのお店と捉えれば、自分たちのお店の中だけでなくお店の外環境も気になり、掃除や植栽の管理もしたくなるはず。

●店主はまちの魅力伝道師

- ✓ SNSによってどこでも簡単に情報が得られる時代。だからこそ“ここでしか得られない”情報はとても価値があるもの。まちを歩くだけ、SNSではわからないまちの魅力をまちを訪れた人たちにどんどん伝えましょう。

●本業を大切に！そして面白そうなことには一緒に！！

- ✓ お店が輝かなければ商店街は輝かない。お店の魅力アップに全力を注ぐのがお店のやるべきこと。でも、お店の魅力アップに繋がりそうなこと、なんだか面白そうなことは業種業態とは関係なく一緒にやりましょう。

みんなでやるって
ことだね！



新しい人たちが入ってきやすい雰囲気をつくる

まちの人たちがまちの魅力を発信し、人を呼び込んでいくことで、これまであまりまちを訪れることのなかった人たちが関わる機会をつくっていく。

まちを面白く楽しいところにするのは私たち自身！

第4章

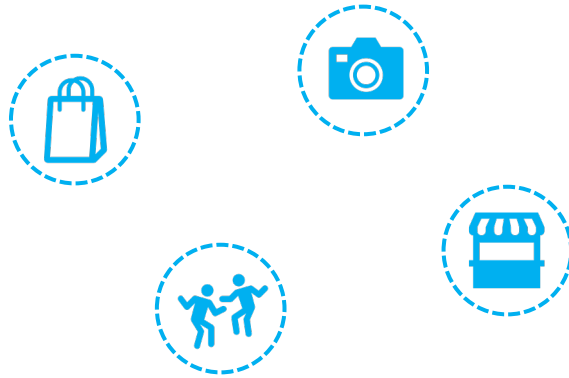
各エリアにおけるリーディングプロジェクト

(1) まちづくりの方針

✓ 以下の4つの方針に基づき、「川沿いエリア」と「駅前、立町・中央エリア」でそれぞれプロジェクトを定め、進めていきます。

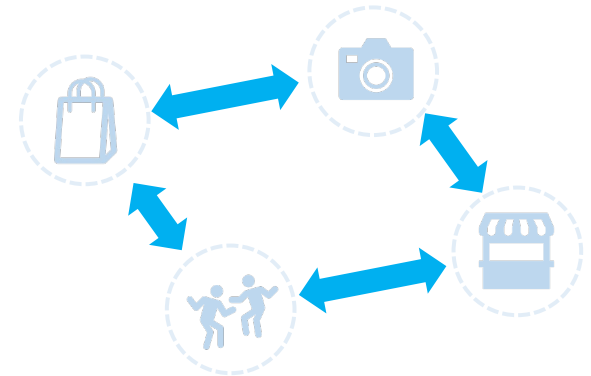
方針1

立ち寄る目的となる拠点(居場所)をつくる



方針2

まちの余白を活かしながら拠点(居場所)をつなぐ



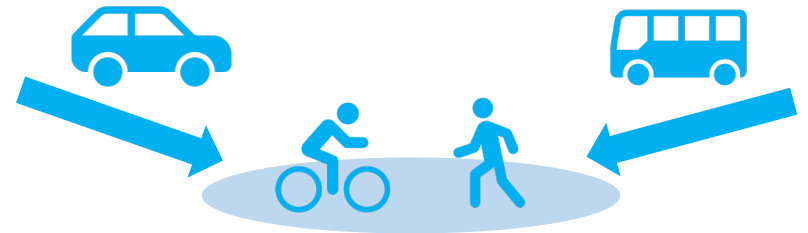
方針3

市民自身が楽しみながら魅力を発信しプロモーションする



方針4

まちの内外を便利に繋ぎまちへのアクセス性を高める



(2) リーディングプロジェクト一覧

目指したいまちの姿
“関わりしろ”のあるまち

目指したい川沿いエリアの姿
川を楽しみ、食で満たされ、アート・マンガに触れる
居心地の良い、歩きたくなるエリア

目指したい駅前、立町・中央エリアの姿
まちの魅力が高まり、新たなチャレンジが
生まれるエリア

第4章

各エリアにおける
リーディング
プロジェクト

各プロジェクトの実施

まちづくりの方針

方針1 方針2 方針3 方針4

1	北上川であそぼう	■			
2	川沿いをみんなの広場に		■		
3	空き地・空き店舗活用	■			
4	まちの宝を見える化・磨き上げ			■	
5	川沿いの街並みづくり		■	■	
6	交通アクセス改善				■
7	中瀬の居場所づくり	■			
8	エリマネの推進			■	■

各プロジェクトの実施

まちづくりの方針

方針1 方針2 方針3 方針4

1	まちのチャレンジ応援	■			
2	石巻のまち“のこし”	■			
3	“もっと居たくなる”まちなか		■		
4	まちを楽しく発信			■	
5	訪れやすいまちなか				■
6	駅前の居場所づくり	■			
7	エリマネの推進	■	■	■	

—— 同時に進めていく

- - - - 連携して進めていく

川沿いエリアにおける リーディングプロジェクト

(3) 川沿いエリアにおけるリーディングプロジェクト

目指したい川沿いエリアの姿

川を楽しみ、食で満たされ、アート・マンガに触れる
居心地の良い、歩きたくなるエリア

方針1

立ち寄る目的となる拠点(居場所)
をつくる

- PJ1 北上川であそぼう
- PJ3 空き地・空き店舗活用
- PJ7 中瀬の居場所づくり
- PJ8 エリアマネジメントの推進

方針2

まちの余白を活かしながら拠点
(居場所)をつなぐ

- PJ2 川沿いをみんなの広場に
- PJ5 川沿いの街並みづくり
- PJ8 エリアマネジメントの推進

方針3

市民自身が楽しみながら魅力を
発信しプロモーションする

- PJ4 まちの宝が見える化・磨き上げ
- PJ5 川沿いの街並みづくり
- PJ8 エリアマネジメントの推進

方針4

まちの内外を便利に繋ぎまちへの
アクセス性を高める

- PJ6 交通アクセス改善
- PJ8 エリアマネジメントの推進

(3) 川沿いエリアにおけるリーディングプロジェクト

PJ1 北上川であそぼうプロジェクト

普段使いからイベント時の利用まで、さまざまな人たちによる川遊びのバリエーションを増やすことで、まちへの愛着を深めます。

PJ2 川沿いをみんなの広場にプロジェクト

橋通り・かわまち交流広場を「市民にとっての憩いの場」として、イベントなど市民が主体的に利用できる環境をつくっていきます。

PJ3 空き地・空き店舗活用プロジェクト

空き地や空き店舗の活用を図ることで、エリアに訪れる目的をつくり、まちなかを回遊する人を増やし、消費活動や交流活動の創出へとつなげます。

PJ4 まちの宝を見える化・磨き上げプロジェクト

地域の魅力を「まちの宝」として改めて見直し、磨き上げ、広く発信することでまちへの集客を図ります。

PJ5 川沿いの街並みづくりプロジェクト

川沿いエリアの特徴やこれまで表に出ていなかった魅力を活かし「ここならではの」風景をつくっていきます。

PJ6 交通アクセス改善プロジェクト

歩行者の動線を中心に考え、自動車も歩行者も訪れやすいエリアを目指します。

PJ7 中瀬の居場所づくりプロジェクト

市民みんなで利活用の可能性を広げ、誰にとっても居心地の良い空間をつくります。

PJ8 エリアマネジメントの推進プロジェクト

それぞれのプロジェクトの動きを知ったり発信する場を設け、プロジェクトがより円滑に進むようにします。

1 北上川であそぼうプロジェクト

市民や観光客が普段使いからイベント時の利用まで北上川の水面や堤防の上で思い思いに遊ぶことができるようにします。さまざまな人たちによる川遊びのバリエーションを増やすことで、まちへの愛着を深めます。

プロジェクトの概要

a) 誰もが水辺を利用できる体制をつくる！

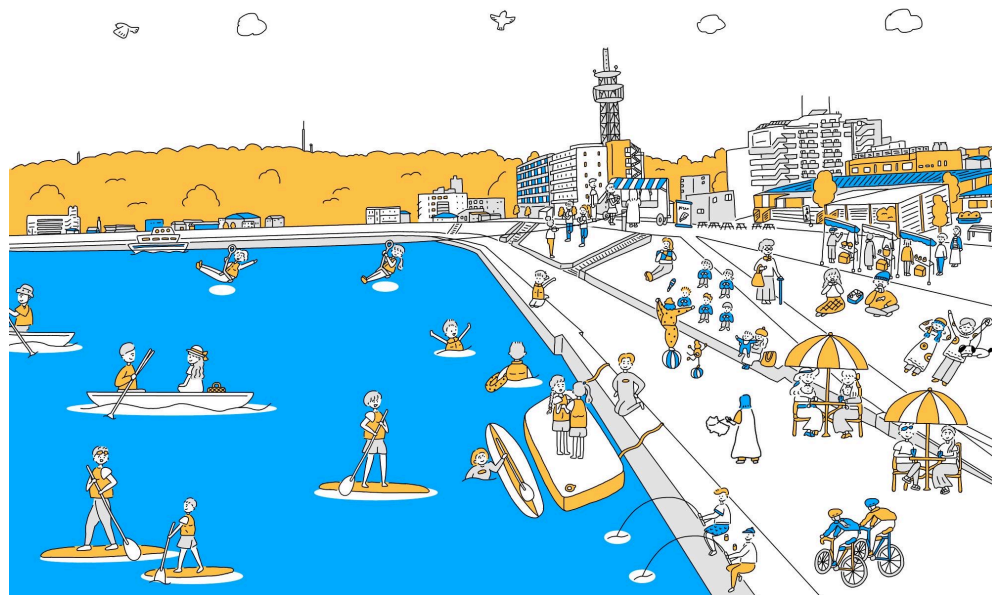
- ・ エリア内の事業者や地域住民などによる連絡会議を設け、イベントの共有や情報発信を行う
- ・ 市民によるさまざまなイベントを受け入れるための使用申請・相談窓口を設置する
- ・ 窓口ではイベントの実施に向けたサポートも行う

b) 普段使いの方法を発信する！

- ・ イベント時のみだけでなく、日常的な利用方法について提案、実践していく
- ・ 関係機関と調整の上、利用を促進する設備を整備していく

c) 中瀬や上流・下流を含めた利活用を促進・実践する！

- ・ 門脇・南浜地区や住吉地区など上下流域も含め、水面利用を得意とする事業者を巻き込んだ活動を実施する
- ・ 中瀬の利活用とも連携した取組を企画、発信する

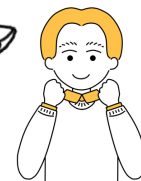


生み出したいシーン

- ・ 堤防に上がったり橋を渡ると、思わず自分の周りの人たちに伝えたい風景が広がっている
- ・ 地元の子どもたちがかわべで遊ぶ風景を市民や観光客がゆったり眺めている
- ・ 川を眺めながら堤防に座って弁当や珈琲を楽しむ



昔やっていた取組
をヒントにするの
もいいね



1 北上川であそぼうプロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことでいたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

1-1 ここでは体験できないアクティビティを開発する！

SUP・カヤック・手漕ぎボート・屋形船・かわべBBQ・ジップライン・渡し船・吊り橋など、これまで取り組まれてきたことや周辺で行われていることを参考にしながらここではできないアクティビティをつくっていく。

1-2 日常利用を促進する“居心地が良くなるもの”を追加する！

堤防の上に居心地の良い椅子を設置したり、ジョギングコースとして利用したくなる仕掛け（距離の表示など）をするなど、普段使いがされる工夫をする。

1-3 中瀬の利用と合わせたアクティビティを実施する！

SUPを体験した後に中瀬公園で朝ごはんを食べる取組など、中瀬がある地形を活かした取組を関連する事業者を巻き込みながら行っていく。

 すでに起こっているアクション



【かわべでシアター】石ノ森萬画館をスクリーンにした映画上映会で、川沿いの夏の風物詩になりつつある。



【釣った魚を天ぷらにするイベント】

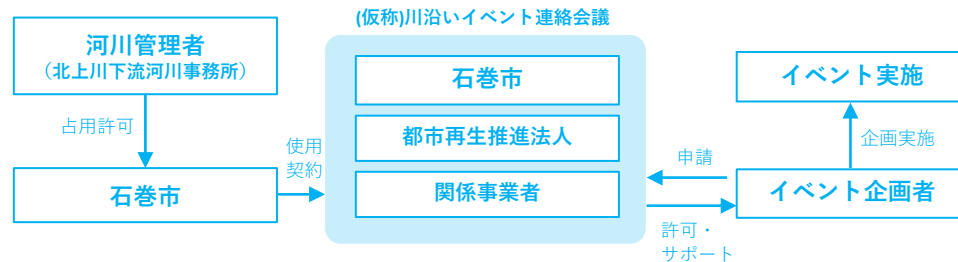
秋頃に多く釣れるハゼをみんなで釣るイベント。釣った魚はもれなく天ぷらにして食べることができる。

第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

実施フローのイメージ

堤防や水面、かわまち交流広場それぞれを管理・活用する主体間でイベントについて共有し、一体的な情報発信を行う。



2 川沿いをみんなの広場にプロジェクト

昔は毎週末に歩行者天国になるなど石巻一の賑わいを見せた「橋通り」。交通体系が変わったこれからも、橋通り・かわまち交流広場を「市民にとっての憩いの場」として、イベントなど市民が主体的に利用できる環境をつくっていきます。



第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

プロジェクトの概要

a) 市民によるさまざまなイベントが実施できる体制をつくる！

- ・エリア内の事業者や地域住民などによる連絡会議を設け、イベントの共有や情報発信を行う
- ・橋通りやかわまち交流広場を会場に実施されるさまざまなイベントを受け入れるための窓口を設置する
- ・都市再生推進法人が中心となり、道路占用等の手続きやイベントの企画に関するサポート、助成金等の案内、地域関係者との調整を行うことで、より多くの人々が利用しやすい環境をつくる

b) 使いやすい広場づくりを進める！

- ・橋通りやかわまち交流広場をはじめ、まちなかで実施されるイベントや施設・店舗情報の発信や、より使いやすくなるための整備を進める

生み出したいシーン

- ・トリコローレ音楽祭、夜店、手づくり市など市民持ち込み型のイベントが橋通りやかわまち交流広場で定期的で開催される
- ・マンガをテーマとしたイベントが堤防やかわまち交流センター、橋通りと一体となって開催される
- ・いしのみき元気いちばや近隣の飲食店を訪れた観光客や市民が、橋通りやかわまち交流広場で行われているイベントに興味を持って立ち寄る



2 川沿いをみんなの広場にプロジェクト

アイデアの引き出し

- ✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

2-1 川沿いなどまちなかの情報がわかる**掲示板を設置する！**

橋通りやかわまち交流広場などまちなかで行われるイベントや施設・店舗情報を取得できるデジタルサイネージを設置することで、歩いて楽しめるきっかけをつくる。

2-2 近隣施設への**誘導サイン・自転車置き場を設置する！**

石ノ森萬画館やフェリー乗り場、最寄りのトイレの方向を示すサインや自転車置き場を設置することで利便性や回遊性の向上を図る。

2-3 **フォトスポットを設置する！**

フォトスポットとなるキャラクターベンチを、堤防の上など景色の良いところや目につくところなどに複数設置することで、居心地が良く歩いて回りたくなるエリアをつくっていく。

2-4 **公共空間の使い方マニュアルを公開する！**

かわまち交流広場や堤防一体空間、道路などを利用するにあたっての申請書や申請先等のマニュアルを公表し、市民の利用にあたってのハードルを下げると共に、利用しやすさの向上につなげる。



第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

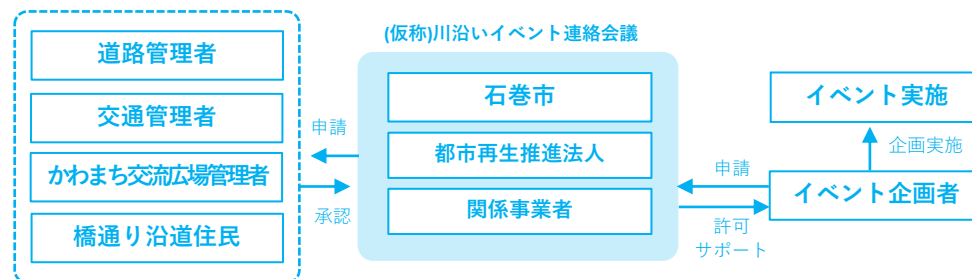
参考となる取組



【公共空間利用ガイド】
(須賀川市・門真市など)
中心市街地の公共空間（道路、公園、広場など）の利用方法をまとめたマニュアルを市が公表。利活用のみならず、利用にあたっての各種補助制度等も紹介。

実施フローのイメージ

堤防や水面、かわまち交流広場それぞれを管理・活用する主体間でイベントについて共有し、一体的な情報発信を行う。



3 空き地・空き店舗活用プロジェクト

手付かずにいる空き地や空き店舗の活用を図ることで、エリアを訪れる目的をつくり、まちなかを回遊する人を増やし、消費活動や交流活動の創出へとつなげます。

プロジェクトの概要

a) 遊休不動産を見える化し相談窓口をつくる！

- ・ 地元の不動産業者の協力を得ながら、活用可能な物件の情報収集、整理、情報発信を行う
- ・ 物件の紹介から補助金活用支援までまちなかでの出店に対する支援メニューをパッケージ化する

b) 事業者同士のネットワークで空き店舗を増やさないようにする！

- ・ 既存店舗と新規店舗が交流できる場、イベント情報や誘客方法について情報共有できる場を設ける
- ・ 事業者間の緩やかなネットワークで、個店ならではの魅力と一体感を生み出しエリアの集客力を高める



生み出したいシーン

- ・ 出店を考えている市民や事業者が気軽に相談できる窓口がある
- ・ まちなかの新たな出店者が近隣の事業者らに支えられながら店を運営する
- ・ 空き地で定期的にイベントやマーケットが開催され、まちなかを訪れる市民の立ち寄りどころが増える
- ・ 軽食を提供するお店が出店することで、まちなかに滞在する地元の若者が増える



3 空き地・空き店舗活用プロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

3-1 SNSを活用した既存店舗と新規店舗の交流の場を設ける！

イベント情報や各店舗のお得な情報、助成金情報などを店舗の新旧に関わらず共有したり、コミュニケーションを取ることができる場を、SNSなどを活用してつくる。

3-2 マンガを用いて空き地や空き店舗の歴史を発信する！

閉店してしまった名店やまちなかの歴史を、関係者へのヒアリングをしながらマンガにして、空き店舗等の情報とともに発信することで、物件を知るきっかけにする。

3-3 空き地や駐車場を一時的に利用したイベントを実施する！

空き地や駐車場を利用したビアガーデンやパンマルシェなど、短期間のイベントを開催していくことで賑わいを生み出していく。

参考となる取組

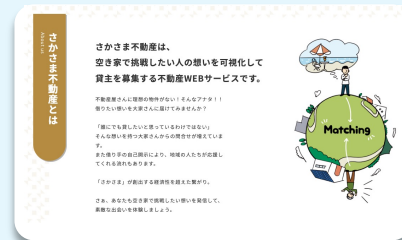


【やまがた街なか出店サポートセンター】

中心市街地で出店を検討している事業者のワンストップ窓口。支援策の情報提供から物件探しまで支援。

【さかさま不動産】

出店を考えている事業者にスポットを当て情報発信し、貸主を募集するwebサイト。

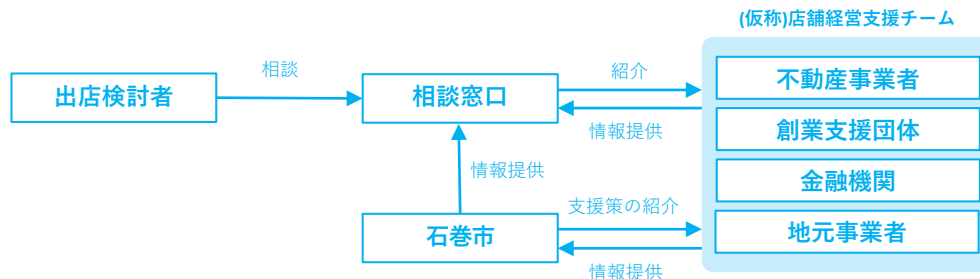


第4章

各エリアにおけるリーディングプロジェクト

実施フローのイメージ

まちなかで出店を検討している事業者の相談窓口と支援事業者による支援チームを設ける。既に活動を行っている支援機関との連携を密にしながら、相談内容に応じて物件情報や支援メニューに関する情報等を提供する。



4 まちの宝を見える化・磨き上げプロジェクト

川沿いエリアなどまちなかには、北上川、食、マンガなど、多くの魅力とそれを楽しむことができる場所があります。一方で、まだ広く知られていない魅力もたくさんあります。そういった魅力を「まちの宝」として改めて見直し、磨き上げ、広く発信することでまちへの集客を図ります。

プロジェクトの概要

a) まちの宝をみんなで探して発信する！

- ・まちなかにあるまだ隠れた魅力を、まちなかの関係者だけでなく市民や普段あまりまちなかを訪れない人などみんなで探して発信する

b) まちの宝を共有する企画を実施し参加してみる！

- ・既に行われている食やマンガなどまちの宝を楽しむ企画の発信力を上げるなどアップデートして開催していく
- ・まちなかで行われているまちの宝を楽しむイベントに多くの市民が参加できるようにする



生み出したいシーン

- ・市民や観光で訪れた方が、訪れるたびに新しい魅力に出会い「また来たい」と思う
- ・市民にまちなかや川沿いエリアに対して「面白いエリア」というイメージを持ってもらう



4 まちの宝を見える化・磨き上げプロジェクト

アイデアの引き出し

- ✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことでいたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

4-1 まちの成り立ちと魅力をまとめたマンガを作成する！

川湊としてのまちの成り立ちや、昔のまちでの思い出をマンガに描き起こして、市民や観光で訪れた方に手軽に知ってもらうようにする。また、まちづくりの取組を行っていくヒントにする。

4-2 「人」にスポットを当てたマップを作成する！

お店の方など人物にスポットを当てたまち歩きマップを作成し、まちなかを歩いてもらったり知ってもらうきっかけにする。

4-3 宝の磨き上げプロジェクトへの参加の裾野を広げる！

いしのまきねこふえすやポンパールいしのまきなど、すでに実施されている地域の魅力を磨き上げるイベントについて、関係事業者が連携することより情報発信力を上げたり参加の裾野を広げる。

実施フローのイメージ



すでに起こっているアクション



【石巻ディープカルチャーストリート】

中心市街地のいろいろな場所を使って自分たちの趣味や特技などを共有するイベント



【いしのまきねこふえす】

猫グッズの販売や猫の写真展など、猫好きが集まるイベント。

市民団体やまちなかの事業者などが参加するプロジェクトチームを立ち上げ、まちの宝探し、宝の磨き上げに向けた取組を進めていく。進行にあたっては、都市再生推進法人や商工会議所、石巻市が支援を行うことで、より多くの市民の参加を促す。

5 川沿いの街並みづくりプロジェクト

川沿いエリアに「また訪れたい」と思ってもらうためには、エリアの魅力や人々の活動が感じられる街並みが重要です。川沿いエリアの特徴やこれまで表に出ていなかった魅力を活かし「ここならではの」風景をつくっていきます。

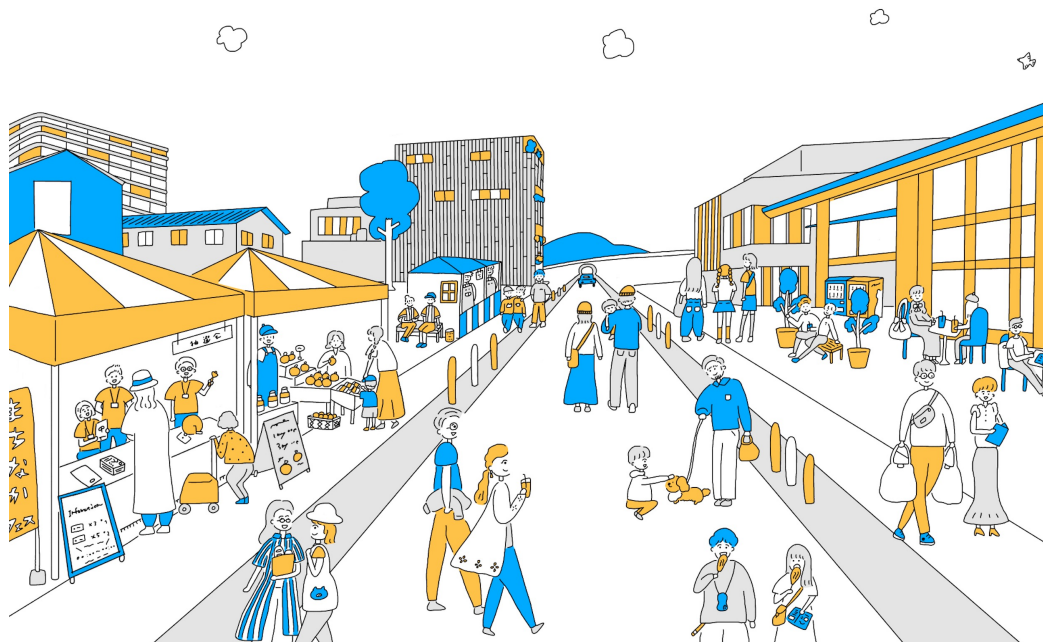
プロジェクトの概要

a) まちのイメージをつくる！

- ・建物だけでなく、川などの自然の風景や看板やロゴなどのサイン、夜の景色など場面によってテーマや統一性を持ったデザインガイドラインをつくる

b) デザインガイドラインに基づき、できるところから街並みづくりを進める！

- ・デザインガイドラインに沿って作成した共通ロゴの入った看板を設置したり、テーマ性を持ったイベントを空き地や駐車場で開催するなど、川沿いエリアのイメージをできるところから少しずつつくっていく



生み出したいシーン

- ・市民や観光客が川沿いエリアを訪れると「石巻に来たなあ」と感じる
- ・マンガ家やアーティストが、ここで創作活動をしたと思う
- ・「石巻といえばここ！」と紹介できる、自慢したくなるフォトスポットがある



5 川沿いの街並みづくりプロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。



5-1 川や雰囲気のある建物を活かして夜景を演出する！

川沿いに照明を設置したり、建物の照明を工夫（点灯時間の延長など）することで、ここならではの景色をつくり、日中だけでなく夜も楽しく過ごせるようにする。



5-2 空き地や駐車場を活用して川沿いならではの風景をつくる！

建物の整備や修景だけでなく、空き地や駐車場を活用したマルシェや朝市などのイベントやキッチンカーの出店など一時的な風景をつくることによりエリアのイメージアップを図り、居心地の良さを向上させる。



5-3 デザインガイドラインに基づいて建物の整備や電線の地中化など修景を進める！

策定したガイドラインをもとに、建物（ファサード）の整備や電線類の地中化など長期的な街並みづくりについて、官民連携によって市民意識の醸成から（シンポジウムやアイデアコンペの開催など）取り組んでいく。



すでに起こっているアクション



【CAFE STONE WRAP (堤防カフェ)】

震災後整備された堤防一体空間に全天候型のコンテナハウスを設置。市民の日常利用や憩いの空間としての利用を想定。川沿いならではの景色を楽しみながら珈琲を楽しむことができる。



参考となる取組

【気仙沼内湾地区のライトアップ】

海岸沿いの施設へのイルミネーションや、近隣の神社へのライトアップ（社会実験）を行い、夜間の景観を演出している。

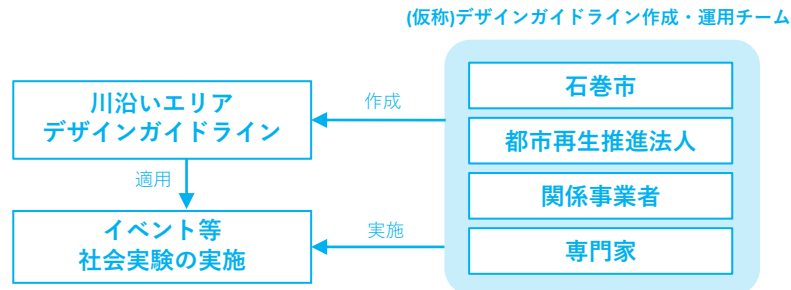


第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

実施フローのイメージ

エリア内事業者や都市再生推進法人が中心となり、川沿いエリアデザインガイドラインを作成する。作成にあたっては専門家の支援を得る。作成されたガイドラインのもとで、街並みづくりを進めていく。



6 交通アクセス改善プロジェクト

歩行者の動線を中心に考え、自動車も歩行者も訪れやすいエリアを目指します。また、自動車や鉄道だけでなく、船や自転車など移動自体がコンテンツとなるような移動手段も促進していきます。

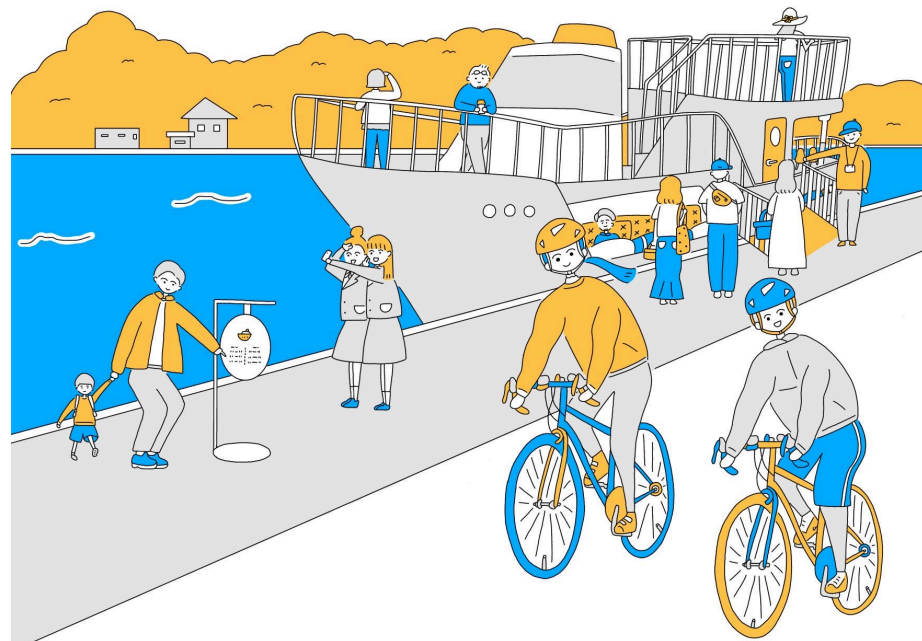
プロジェクトの概要

a) 歩行者を優先に自動車がスムーズにアクセスできるよう改善を要望する！

- ・歩行者と自動車の動線をなるべく分けた歩きやすい環境づくりについて、エリア内の事業者間で協議する
- ・一方通行の変更や信号機の設定変更について、社会実験等を重ねながら道路管理者や交通管理者へ改善策を提案する
- ・駐車場の分散利用を図るための情報発信を行う

b) 移動を楽しむ企画を提案・実践する！

- ・船や自転車など、川や堤防を利用した移動手段によって、移動自体を楽しめるようにする
- ・車を停めて目的地まで歩いて行きたくなる仕掛けを通りや駐車場に施す



生み出したいシーン

- ・ゴールデンウィークやお盆期間中でもスムーズに川沿いエリアを訪れ、楽しく安全に回遊できる
- ・南浜津波復興祈念公園に車を停めて、船や自転車で川沿いエリアを訪れる
- ・まちなかを訪れた方がサインや案内を見て南浜津波復興祈念公園や雄勝地域、牡鹿半島などへ行く

いろいろな交通手段
で訪れ移動できる
のは魅力的だね



6 交通アクセス改善プロジェクト

アイデアの引き出し

- ✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

6-1 かわまち立体駐車場の満空状況を知らせる掲示版を設置する！

繁忙期などにかわまち立体駐車場に向かう車による渋滞を緩和するために石巻河南IC方面から来る車に、駐車場の満空状況を発信する掲示版を設置する。

6-2 サービス券が利用できる駐車場を増やす！

まちなかの駐車場に停めた買い物客や観光客がより長い時間滞在できるように駐車サービス券が利用できる駐車場を増やす。

6-3 北上川や堤防を介して南浜地区とつなぐ手段を開発する！

離島航路やレンタサイクルの利用促進、キックボードやトクトクなど移動自体を楽しめる手段を、社会実験等によって開発していく。

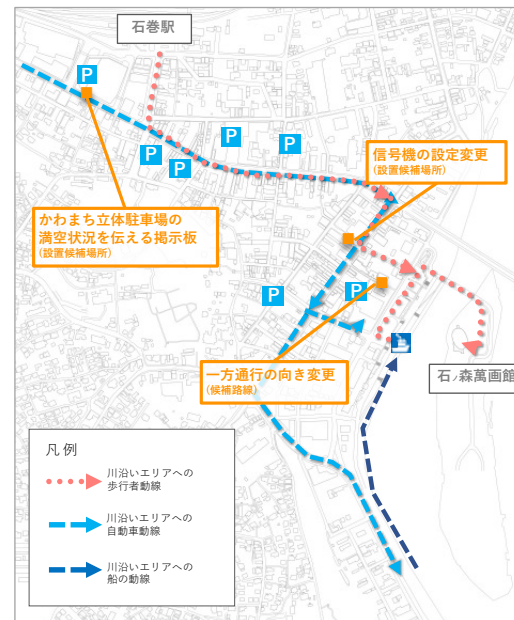
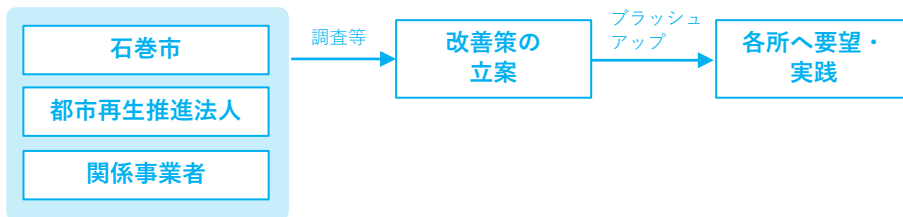
6-4 交差点、駐車場、路地に愛称をつけて楽しく歩けるようにする！

まちなかの駐車場から店舗や施設など目的地まで楽しく歩けるように、途中の交差点や駐車場などに愛称をつける。

実施フローのイメージ

都市再生推進法人、石巻市、関係事業者によるプロジェクトチームを設け、交通アクセスの改善策についてまとめる。必要に応じて道路管理者・交通管理者へ改善策を要望する。

(仮称)交通アクセス検討チーム



■ 検討会で協議された川沿いエリアへの動線のイメージ(一例)



すでに起こっているアクション



【南浜エリアとの接続シャトルバス企画】

ゴールデンウィークに渋滞するまちなか、かわまち立体駐車場の混雑回避やまちなかの民間駐車場の有効利用を目指すとともに、南浜エリアとの回遊性向上を目指し、大規模駐車場を有する南浜と往復するシャトルバスを運行させる。

7 中瀬の居場所づくりプロジェクト

市民が身近に感じられる公園を目指し、親水空間や川湊としての歴史など中瀬にしかないものを活かしながら、市民みんなで利活用の可能性を広げ、誰にとっても居心地の良い空間をつくっていきます。

プロジェクトの概要

a) 「やってみたい」を実際にやる！

- ・中瀬だからできること、やったら面白そうなことを、広く市民の方々へ声を掛けながら社会実験として実施する
- ・実験結果をもとにその後も検討や実践を重ね、長期的な利活用の取組について定め実行していく

b) 中瀬の歴史やこれまでのまちづくりの取組を知る！

- ・これからの中瀬の利活用を考えるにあたり、川湊としての中瀬が果たした役割、それらをもとに実施されてきたまちづくりの取組について有志らによる勉強会を行い、発信する



生み出したいシーン

- ・子どもから大人までバンド等のサークル活動をしている
- ・水辺の飲食事業、防災キャンプ、SUPなど中瀬ならではの水辺レジャーが行われている
- ・官民が連携して四季の移り変わりを感じる杜や庭園をつくり、来園者が自然に触れ合えることを楽しむ
- ・かわみなと石巻の歴史や東日本大震災からの復興まちづくりを紹介している

市民も観光客も
気軽に訪れること
ができるね



7 中瀬の居場所づくりプロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。



7-1 水辺と親しむ企画を開催する！

早朝に中瀬を発着するカヤックやSUPツアー等を開催し、川や空の色が移り変わる時間を川の上でゆったり過ごし、地元食材の朝食を味わう。



7-2 公園と連動して利用できる活動拠点を設ける！

中瀬の活動拠点となる屋内スペースを有する施設を設置し、サークル等の活動・交流の場をつくる。



7-3 “川面に浮かぶ”杜や庭園をつくる！

四季を感じられる杜や庭園を市民参加によりつくる。



7-4 自然と触れ合える空間をつくる！

希少生物の観察や環境指標生物であるニホンミツバチの生態を通じて、自然と触れ合え、学べる空間をつくる。



7-5 水辺のデイキャンプを楽しむ！

市街地にある貴重な水辺に近い空間を活かし、地場産材が楽しめる、非常時の対応が学べるデイキャンプ広場をつくる。



7-6 石巻の歴史・東日本大震災からの復興を継承する！

中瀬・中央地区を中心にかわみなと石巻の歴史、東日本大震災からの復興まちづくりを解説するガイドを育成する。

実施フローのイメージ

マネジメント会議の運営により、利活用手法の検討や提案を積み重ねるなかで、「やってみたい」ことを実践できる場を目指す。市民のゲスト参加のみならずキャストとして参加する場を作ることで市民参加による公園づくりを進める。

中瀬 マネジメント 会議

・プロジェクト
リーダー
・アドバイザー
・行政

連携
共有

各プロジェクト

・杜庭園プロジェクト
・自然環境創造プロジェクト
・デイキャンププロジェクト
…

※提案により今後も追加

参加

市民
(ゲスト・
キャスト)



■ 中瀬公園のゾーニングイメージ すでに起こっているアクション



市民参加の公園づくり

令和6年度から市民参加の社会実験を実施しています。

- ・ニホンミツバチがテーマの自然環境セミナー
- ・水辺のデイキャンプ
- ・ガーデンづくり

令和7年度以降も市民を巻き込みながら取組が進められる予定です。



8 エリアマネジメントの推進プロジェクト

川沿いエリア及び駅前、立町・中央エリアのプロジェクトに関わる人たちが、他のプロジェクトの動きを知ったりつながりをつくる場＝プラットフォームが設立されたことにより、積極的な情報発信を行い、市民の巻き込みが図られ、プロジェクトがより円滑に進むようになります。また、未来ビジョンに記されたプロジェクトだけでなく、新たな取組が生まれていくように推進していきます。

プロジェクトの概要

a) まちなかでの取組を発信・共有する場をつくる！

- ・それぞれのプロジェクトの熟度に応じて、プロジェクトを推進していくためのチームを設立し、その連携体としてプラットフォームを開催する。
- ・プラットフォームは開かれた場とし、誰でも気軽に参加することができるようにする。

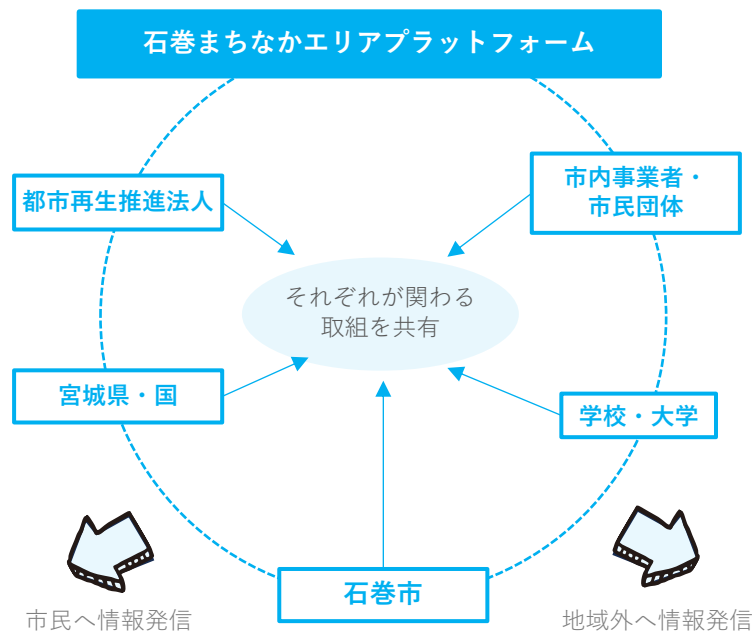
b) 各プロジェクトを推進していく手法を検討する！

- ・各事業を推進していくための費用や人材を確保する。
- ・会費収入や広告・駐車場収入など、まちなかの魅力向上や課題解決につながり、かつ収益を上げられる方法について、まちづくりに関する制度を活用しながら検討していく。



各プロジェクトを推進するチームが集まり発信する場を設ける。総会や役員会、定例会等階層ごとの会議を適宜開催し、各プロジェクトの共有と市民等に向けた発信を行う。プロジェクトチームは、今後のまちづくり状況に応じて追加していく。

実施フローのイメージ



すでに起こっているアクション



石巻まちなかエリアプラットフォームの設立
令和7年1月9日に、エリアプラットフォーム設立総会が開催されました。

駅前、立町・中央エリアにおける
リーディングプロジェクト

(4) 駅前、立町・中央エリアにおけるリーディングプロジェクト

目指したい駅前、立町・中央エリアの姿

まちの魅力が高まり、新たなチャレンジが生まれるエリア

方針1

立ち寄る目的となる拠点(居場所)をつくる

- PJ1 まちのチャレンジ応援
- PJ2 石巻のまち“のこし”
- PJ6 駅前の居場所づくり
- PJ7 エリアマネジメントの推進

方針2

まちの余白を活かしながら拠点(居場所)をつなぐ

- PJ3 “もっと居たくなる”まちなか
- PJ7 エリアマネジメントの推進

方針3

市民自身が楽しみながら魅力を発信しプロモーションする

- PJ4 まちを楽しく発信
- PJ7 エリアマネジメントの推進

方針4

まちの内外を便利に繋ぎまちへのアクセス性を高める

- PJ5 訪れやすいまちなか
- PJ7 エリアマネジメントの推進

(4) 駅前、立町・中央エリアにおけるリーディングプロジェクト

PJ1 まちのチャレンジ応援プロジェクト

「相談窓口の強化」、「チャレンジショップの設置」などによって、何かを始めてみたいという人たちが、適切にサポートを受けながらチャレンジできる環境をつくります。

PJ2 石巻のまち“のこし”プロジェクト

互いのお店を気遣い合える昔ながらの商店街の魅力など、石巻のまちなからしさを将来に繋いでいきます。

PJ3 “もっと居たくなる”まちなかプロジェクト

買い物で訪れた人、観光で訪れた人、散歩で来た人など、老若男女誰もが居心地良く感じられる、安全安心な歩行・滞在環境をつくります。

PJ4 まちを楽しく発信プロジェクト

まちの人たちが“伝道師”となり、“たくさんの魅力溢れるまち”石巻の歴史やまちで起こっていることを楽しく発信・紹介します。

PJ5 訪れやすいまちなかプロジェクト

歩行者・自転車に優しいみちづくりを念頭に、交通関係事業者と連携を図りながら誰もが自動車や公共交通など多様な手段でまちなかへ訪れ回遊することができるようにします。

PJ6 駅前の居場所づくりプロジェクト

電車や路線バスの利用など通過点としてだけでなく、交流や消費の場としての活用策を検討します。

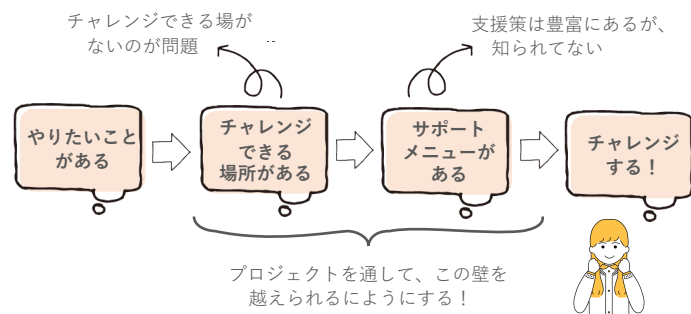
PJ7 エリアマネジメントの推進プロジェクト

それぞれのプロジェクトの動きを知ったり発信する場を設け、プロジェクトがより円滑に進むようにします。

1 まちのチャレンジ応援プロジェクト

「イベントを企画してみたい」、「新たにお店を始めてみたい」、「自分の作った作品をいろんな人に見てもらいたい」など何かを始めてみたいという人たちが、適切にサポートを受けながらまちなかでチャレンジできる環境をつくります。

チャレンジに向けたステップ



プロジェクトの概要

a) 遊休不動産を見える化し相談窓口をつくる!

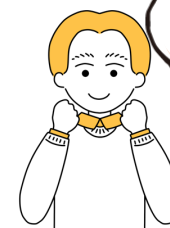
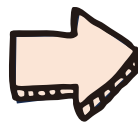
- ・ 出店可能な物件の情報を集め発信する。
- ・ 各支援機関や地元事業者と連携を取り、出店希望者がスムーズかつ最大限の支援を受けられるようにする。

b) 空き地・空き店舗を活用してチャレンジショップをつくる!

- ・ 空き地にコンテナを設置したり、空き店舗をリノベーションして短期で借りられるお店を設ける。
- ・ 整備にあたっては、チャレンジショップの持続性を確保できるよう、土地・建物所有者の協力を得て進める。

生み出したいシーン

- ・ “何か新しいことを始めるならまちなか”が当たり前になる。
- ・ お店をやっている方が新しく作った商品をチャレンジショップで販売しお客さんの反応を見て開発を進めることができる。



まちなかに
出店したい!

1 まちのチャレンジ応援プロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

- 1-1** まちの眠っているお宝（空き店舗）探しツアーを開催する！

まちなかの利用されていない店舗や空き家を探して回ったり、テナントを募集している物件を見て回り情報を共有することで、出店希望者が現れた際に紹介できるようにする。
- 1-2** 使われていない建物の2階や3階、屋上などを貸し出す！

デッドスペースになっている建物の2階・3階や屋上を、所有者の協力を得てイベントや短期間で貸し出してみる。利用希望者が多ければ、長期的な貸し出しや使いやすくするための改装などを検討する。
- 1-3** いしのまきビジネスコンテストを開催する！

まちなかでの新たなビジネスアイデアをコンテスト形式で募る。審査の過程で事業について周知を図りつつ、優勝者には開業支援金を付与することで、まちなかへの出店意欲を高める。
- 1-4** 空き地を使ってキッチンカー等が常時出店できるブースを設ける！

商店街沿いの空き地や駐車場等で歩行者通行量の多い箇所を利用して、キッチンカーや屋台等が常時出店できるようにする。

参考となる取組



多治見ビジネスコンテスト (通称：タジコン)

多治見市中心市街地の活性化を目的に2018年からスタート。事業計画の作成支援を受けながら応募できる。グランプリの副賞は出店費用300万円（中心市街地以外で出店する場合は200万円）。

アキテンポ不動産

青梅市中心市街地の活性化を目的に2016年からスタート。仲介事業ではなく、不動産オーナーのニーズギャップを埋め、不動産を動かすことを目的に取り組み、10年間で新規開業130件が掘り起こされている。

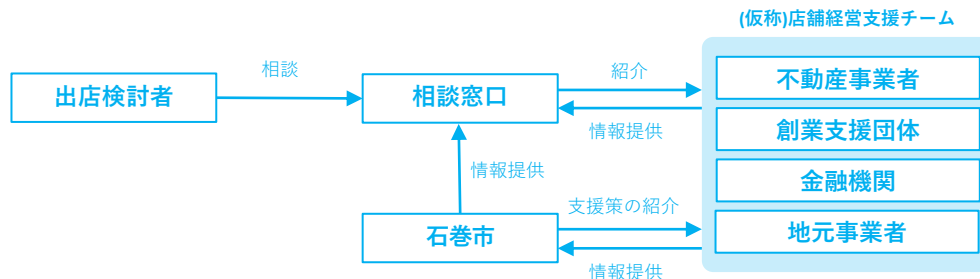


第4章

各エリアにおけるリーディングプロジェクト

実施フローのイメージ

まちなかで出店を検討している事業者の相談窓口と支援事業者による支援チームを設ける。既に活動を行っている支援機関との連携を密にししながら、相談内容に応じて物件情報や支援メニューに関する情報等を提供する。



2 石巻のまち“のこし”プロジェクト

店主の高齢化、コロナ禍や物価高騰等により震災を乗り越え長く続けてきたお店が閉店せざるを得ない事態が少なくありません。新しい人たちがまちに加わってくれるのはとても嬉しいことですが、業種は異なれど互いを気遣い合える昔ながらの商店街の魅力、石巻のまちらしさが失われてしまわないようまちの良いところを未来へつないでいきます。



プロジェクトの概要

- a) **お店のニーズに応じて、事業を継承したい担い手とマッチングする機会をつくる！**
 - ・既存店舗について後継者の有無等の情報収集を行い、関係機関との連携のもと店舗と新規出店希望者とのマッチングを進める。
- b) **商店街参加型イベントを企画・実施する！**
 - ・抽選会、売り出し、まちゼミなど、商店街だからこそできる企画を少なくとも年に一つ、可能な限り多くの事業者の参加のもと企画実施し、商店街としての一体感を醸成する。

これまでの商店街

残したいもの
価値観・文化
等

未来の商店街

新しい店舗
新たな業種・
新たな考え

生み出したいシーン

- ・老舗店舗と新しい店舗のネットワークが構築され、昔ながらの商店街の魅力が新しい店舗に引き継がれている。
- ・店主は変わったが店名は変わらず、定番商品はありつつも新しいメニューが登場し地域に愛され営業を続けている。



街並みは昔と
変わったけど
石巻のまちらしさを
感じるね！

2 石巻のまち“のこし”プロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

2-1 高校生や大学生がお店の運営サポートをする！

市内の高校生や大学生と店舗と一緒に情報発信や商品・サービスについて考える機会を設ける。トレンドやSNSを使った情報発信方法等について店舗が学べる機会をつくとともに、若い人たちが商店街を知る機会にする。

2-2 昔懐かしのメニューを限定復活する！

〇〇の焼きそば、△△のラーメン、××の餃子など既に閉店している店舗の定番メニューを再現する企画を実施し、昔の思い出を若い人たちとも共有する。

2-3 昔のお店や街並みを知ることができるまち歩きツアーを開催する！

既に閉店している店舗のあった場所や施設（歴史的名所を含む）を郷土史に詳しい方のガイドのもと巡る。まちなかに新たに出店した人などに参加してもらうことでまちの面白さや良さを共有する。



すでに起こっているアクション

加非館

2023年12月に閉店した喫茶店をファンが事業を継承し、2024年9月に運営を再開した。店名と定番メニュー、店舗の雰囲気を引き継いでいる。



参考となる取組

BATONZ

TRANBI
Innovation Platform

M&ナビ

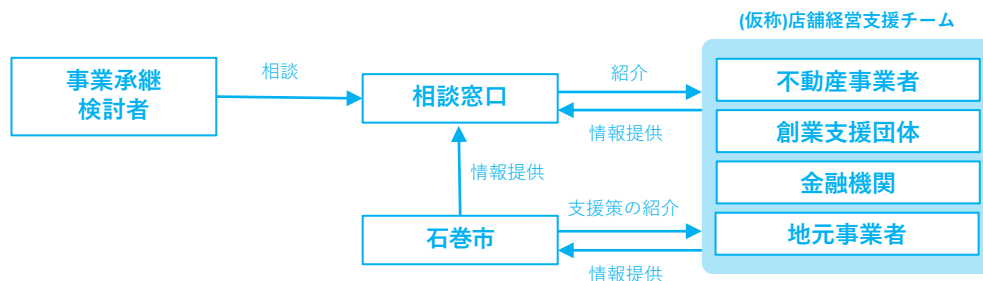
事業承継マッチングサイト
事業のM&Aを支援するプラットフォーム型マッチングサイト。登録するとネット上で売却・買収候補を探ることができる。

第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

実施フローのイメージ

事業承継を希望・検討している事業者の相談窓口を設ける（PJ1の窓口と同じ）。既に活動を行っている支援機関との連携を密にしながら、相談内容に応じて必要な支援に関する情報を提供する。



3 “もっと居たくなる” まちなかプロジェクト

買い物で訪れた人、観光で訪れた人、散歩で来た人など、老若男女誰もが居心地良く感じられる、安全安心な歩行・滞在環境をつくれます。



逆に

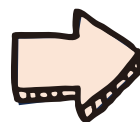
居心地が良くないまちとは？



居心地の良いまちに向けて
一つずつ解消していく！

プロジェクトの概要

- a) 空き地や空き店舗、広場などを日常的に活用し“賑わい”や“憩い”を演出する！
 - 空き地や広場等を誰もが日常的に使えるようにすることで、通りを歩いていて“楽しい”、“寄ってみたい”、“休憩していこう”と思える空間をまちに増やす。
- b) 歩行者・自転車に優しいみちづくりをする！
 - 子どもから高齢者まで誰もが安心して通行したり過ごしたりできるみちづくりを目指し、商店街の自動車通行量や歩行環境に関する実態調査を実施する。



生み出したいシーン

- 用事がなくても時間があればとたえず歩いてみたくなる。
- 子どもたちが空き地や広場等で日常的に遊んでいる。
- 市民が日常づかいで空き地や広場等に憩い、集っている。



石巻のまちなかって
思わず写真を
撮りたくなるよね

3 “もっと居たくなる” まちなかプロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

3-1 複数の空き地を使い、まち全体を会場にしたイベントを開催する！

全体でテーマ（コーヒーやスイーツなど）を設定し、空き地ごとにお店を割り当て、飲食スペースや休憩スペースなどを空き地の特徴を活かして各出店者につくってもらおう。

3-2 老若男女が各々に集えるコミュニティスペースをつくる！

空き地の敷地の特徴を活かしたプレーパークや、商店街の空き店舗や道路空間を活用した高齢者同士の交流スペースをつくることにより、子どもたちや観光客などさまざまな人が触れ合える場を設ける。

3-3 実験的な一方通行や歩行者天国、歩道の利活用をとおして、歩行者に優しいまちづくりを実践する！

立町大通り、アイトピア通り、ことぶき町通り等を実験的に一方通行や歩行者天国、歩道空間の利活用によるオープンカフェの設置、店舗のしみ出しをしてみたりすることで、豊かな歩行者空間の整備（バリアフリー化や電柱地中化、歩道幅員の拡幅等）に向けて検討する。

3-4 もっと居たくなる場づくりを進める！

まちなかの空き地等の低未利用土地を芝生広場的な利活用や緑化等の修景について検討し、住民の集いや訪れた市民の憩いのスペースとしての利活用を模索する。



すでに起こっているアクション

【パンパク】

（いしのまきまちなかパン博覧会）

まちなかの空き地を活用し、パンを楽しむ事をコンセプトに、商店街の若手を中心に有志でイベント企画を行う。



参考となる取組



rojima (須賀川市)
中心市街地の路地や空き地などまちの隙間を活かして100店舗以上が出店するマーケット。

第4章

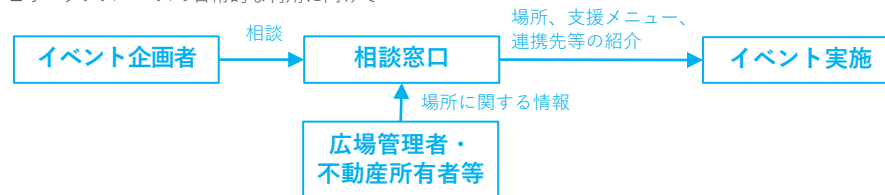
各エリアにおけるリーディングプロジェクト

実施フローのイメージ

空き地や広場等の日常的な利用に向けて、イベント等を企画したいという人たちの相談窓口を設け、広場管理者や支援策、連携先を紹介できるようにする。

優しいまちづくりに向けては、交通事業者など関係者が参加する検討部会を設け、交通アクセスの改善策についてまとめ、必要に応じて要望や社会実験等の実践活動を行う。

■オープンスペースの日常的な利用に向けて



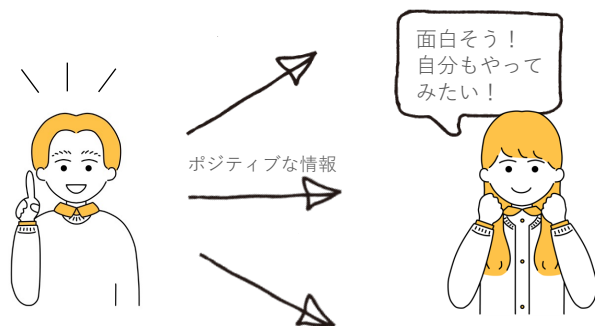
■歩行者に優しいまちづくりに向けて



4 まちを楽しく発信プロジェクト

“たくさんの魅力に溢れるまち”石巻。ちょっとディープなところもあり、広くは知られていない場所や人がたくさんあります。多くの人に知ってもらいまちを訪れてもらうためには、発信する側が“楽しく”、受け取る人たちにとって“面白く”感じられることが大事です。まちの伝道師である“まちの人たち”が中心となって、まちで起こっていることを発信・紹介していきます。

“好き”や“楽しい”を目いっぱい発信することで、
また新たな“好き”や“楽しい”を生みだす



第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

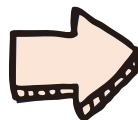
プロジェクトの概要

a) 誰もが参加できるSNSグループをつくる!

- 参加者によってまちのイベント情報や新着情報が投稿・共有されるSNSグループをつくり、そこから市民や観光客へと情報を広げていく。

b) マンガでまちなかを楽しめる仕掛けをつくる!

- あらゆるものを表現できるツールであるマンガの特性を最大限活かして石巻のまちを発信する。
- まちと一体となったモニュメントやサインをつくったり、店舗の歴史などをマンガで伝える。



■ 各地で実施されているSNSによるまちづくりプロジェクト

生み出したいシーン

- まちの人たちがまちで起こっていることの大体を知っている。
- まちの人と話すとイベントやお店などを紹介してもらうことができ、そこへ行くと新たなつながりが生まれる。
- まちを歩くだけでマンガを感じられる。



4 まちを楽しく発信プロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

4-1 まちのお宝マップをつくる！

普段あまりまちを訪れない人たちにまちを案内し、気になったところやおすすめしたいところを地図にまとめ、まちを初めて訪れた人の目線に立ったお宝マップを作成する。

4-2 ディープな石巻を発信する企画を実施する！

店主の隠れた趣味を披露したり、普段まちなかではできないことを実験的にやってみることで、商店街の意外な一面を知ることができる企画を実施する。

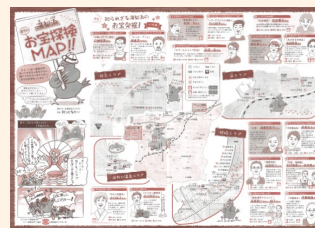
4-3 マンガを切り口にしたシェアワールドを展開する！

マンガの世界観を商店街空間や店舗を巻き込んで展開する。石ノ森作品や石巻を舞台にしたRPGの小説化・マンガ化などをクリエイターの参加を得ながら進める。

4-4 デジタルサイネージを使ってまちに動きをつける！

まちなかで開催されているイベントや施設・店舗の情報を見ることができるようにすることで、常に何か起こっている様子を感じまちを巡ってもらう。

参考となる取組



■ 湯梨浜お宝探索マップ (湯梨浜町)

折りたたむとA5判、広げるとA2判。「ワクワクするマップ」を目指し、商工会の有志らで結成した「ここホレ探検隊」が商店街へのインタビューを重ねて作成。

■ FOR YOU MAP (たじみDMO)

有志の実行委員会で作成。色々紹介したいお店はあるけれど、「〇〇なあなたに行って欲しい」をテーマに絞って、地元民が愛する場所を厳選して掲載。第3弾まで続いている。

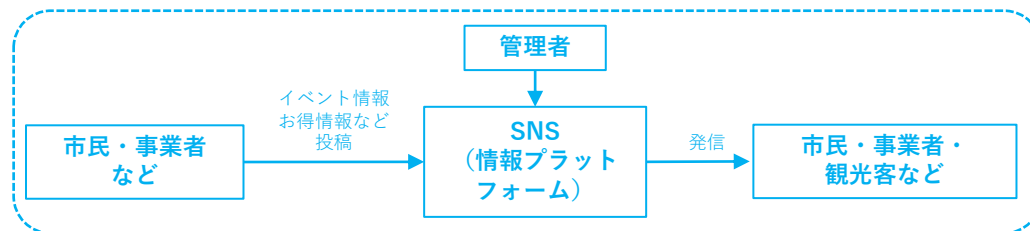


第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

実施フローのイメージ

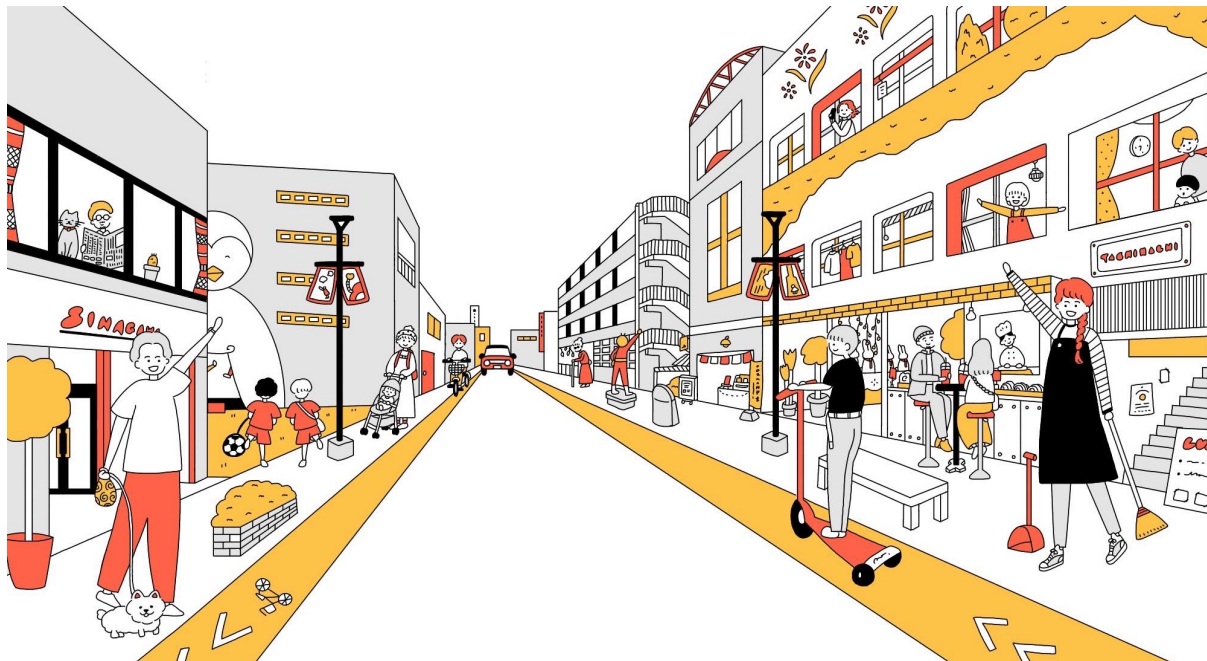
SNSを活用し、まちなかのまちづくりに興味のある人であれば誰でも参加できる情報プラットフォームを立ち上げる。まちなかで行われるイベント情報等が参加者によって投稿され、他の参加者に共有される。



(仮称) 石巻まちなか情報発信チーム

5 訪れやすいまちなかプロジェクト

歩行者・自転車に優しいみちづくりを念頭に、交通関係事業者と連携を図りながら誰もが自動車や公共交通など多様な手段でまちなかへ訪れ回遊することができるようにします。



■まちなかへのアクセスイメージ



自動車や公共交通で快適にまちなかへアクセスでき、商店街は歩いたり自転車等で楽しく回遊できる環境がある

第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

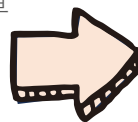
プロジェクトの概要

a) 現在ある駐車場の利用しやすさを向上させる！

- ・まちなかのコインパーキング情報（位置や料金、駐車サービス券利用の可否と配布店舗等）を発信し、駐車場の利便性向上を図る。

b) 自動車以外の手段でまちなかの回遊を促す！

- ・自転車置き場を設置する、レンタサイクルやキックボードなどの実証実験を行う、歩道のバリアフリー化を進めるなど自動車以外の手段での回遊を促進する。



生み出したいシーン

- ・自動車、電車、バス等その時の状況によってまちなかへ行く手段が選択できる。
- ・石巻駅から石ノ森萬画館や日和山、南浜津波復興祈念公園までを、キックボードなどを使用してマンガロードや川沿いの景色を楽しみながら移動できる。



歩きや自転車
のほうが便利だし
エコだね

5 訪れやすいまちなかプロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことでいたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

5-1 共通駐車サービス券を利用できる駐車を増やす！

現在まちなかには30ヶ所以上のコインパーキングがあるが、共通駐車サービス券が利用できる駐車場は半分以上に止まっている。来訪者が利用しやすい駐車場を目指し、共通駐車サービス券が利用できる駐車場を増やす。

5-2 必要に応じてまとまった台数が止められる駐車場をつくる！

現在のコインパーキングの立地及び利用状況を確認し、例えば石巻駅周辺にまとまった台数が止められる駐車場を整備し、そこから周遊へと繋げるようにする。

5-3 中心部周遊バスを運行する！

まちなかとその周辺（中里、大街道、山下、南浜地区等）をバスを使ってワンコイン等で気軽に移動できるようにする。

5-4 キックボード等の二次的交通のレンタルステーションをつくる！

まちなか各所にキックボードや自転車等の二次的交通が借りられる場所を設け、観光で訪れた方や買い物で訪れた市民が借りたい時にすぐ借りられるようにする。

参考となる取組



まち+モビ（豊田市）

トヨタ自動車が開発した電動モビリティ「C+Walk」を中心市街地各所で貸し出すサービス（令和6年1月時点で無料）。最高時速6kmで公道走行が可能であり、運転免許は不要。

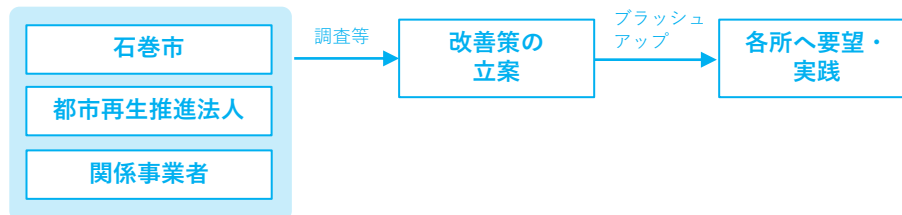
第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

実施フローのイメージ

交通事業者など関係者が参加する検討部会を設け、交通アクセスの改善策についてまとめ、必要に応じて要望や社会実験等の実践活動を行う。

(仮称)交通アクセス検討チーム



6 駅前の居場所づくりプロジェクト

一日に5,000人以上が利用するJR石巻駅。中心市街地の中では多くの方が行き来する拠点ですが、電車や路線バスの利用など通過点としてだけでなく滞在へ繋げることで、交流や消費が生まれる場となる活用策を検討します。



プロジェクトの概要

a) 石巻駅周辺のポテンシャル調査を行う！

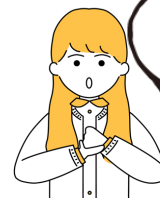
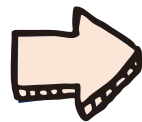
- ・令和5年に実施した社会実験の結果を踏まえつつ、駅前広場や石巻駅周辺の遊休不動産の活用策について、普段駅を利用する人たちや周辺の事業者と考える。

b) 駅前広場を活用して駅周辺にあったらいい機能をイベント的に実施してみる！

- ・前項の調査結果やその過程で出されたアイデアについて、駅前広場を活用して実験的に実施してみる。

生み出したシーン

- ・電車やバスを待つ時間をカフェなどで楽しく過ごすことができる。
- ・「駅に行けば必要なものや情報が手に入る」と思える。
- ・駅前が賑わうことで新たな投資が生まれたり、市民の生活利便性が向上する。



駅前が賑わうと
まち全体の
イメージが良く
なるね！

6 駅前の居場所づくりプロジェクト

アイデアの引き出し

✓ 前頁で記載したこと以外にも「こんなことできたら面白そう」という取組を挙げ、タイミングや条件が合ったときに実施できるようにします。

6-1 駅舎に図書スペースや喫茶ができる店舗をつくる！

学校帰りに学生たちも寄れる図書スペースや喫茶店をつくる。電車待ちや自習に利用したり、待ち合わせなどにも利用できる。

6-2 駅の改札を出た時にマンガのまちを感じられるようにする！

マンガのキャラクターモニュメントやフォトスポットが駅舎やその周りに溢れていて、観光で訪れた方々が「まずは行ってみる場所」となるようにする。

6-3 “ちょい呑み”ができる屋台村をつくる！

駅前周辺に仕事帰りに寄れるちょい呑み屋台が出店できるようにする。旬の食材や季節の料理が楽しめる。

6-4 駅前周辺に大学のサテライトキャンパスをつくる！

まちづくりを学ぶ学生たちの活動拠点としてゼミを行ったり、地域の方々との交流の場として利用する。

参考となる取組



BOXPARKエキニシ (西尾市)

お試し出店やイベント等の「場」として活用できるスペースとして、西尾駅西多目的防災広場に仮設コンテナを設置した期間限定の取組。

Mio cafe TAKEHARA (JR竹原駅)

竹原駅前エリアアオーカブルビジョンに基づいた社会実験を進める中で実現。駅前の店舗をリノベし、皆が集えるカフェに。リノベには良品計画（無印良品）がアドバイス。



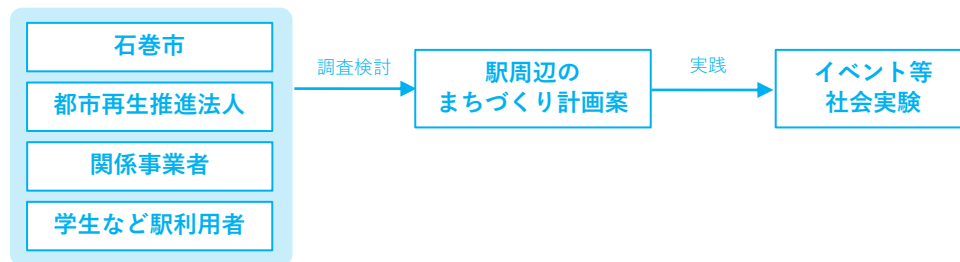
第4章

各エリアにおける リーディング プロジェクト

実施フローのイメージ

高校生や大学生など普段駅を利用している人や周辺事業者などの参加による検討の場を設ける。駅や周辺施設の利用実態やニーズ調査から駅周辺のまちづくりについて取りまとめ、社会実験等を重ねながら具体的な取組へと繋げていく。

(仮称)駅前居場所づくり検討チーム



7 エリアマネジメントの推進プロジェクト（川治いPJ 再掲）

川治いエリア及び駅前、立町・中央エリアのプロジェクトに関わる人たちが、他のプロジェクトの動きを知ったりつながりをつくる場＝プラットフォームが設立されたことにより、積極的な情報発信を行い、市民の巻き込みが図られ、プロジェクトがより円滑に進むようになります。また、未来ビジョンに記されたプロジェクトだけでなく、新たな取組が生まれていくように推進していきます。

プロジェクトの概要

a) まちなかでの取組を発信・共有する場をつくる！

- ・それぞれのプロジェクトの熟度に応じて、プロジェクトを推進していくためのチームを設立し、その連携体としてプラットフォームを開催する。
- ・プラットフォームは開かれた場とし、誰でも気軽に参加することができるようにする。

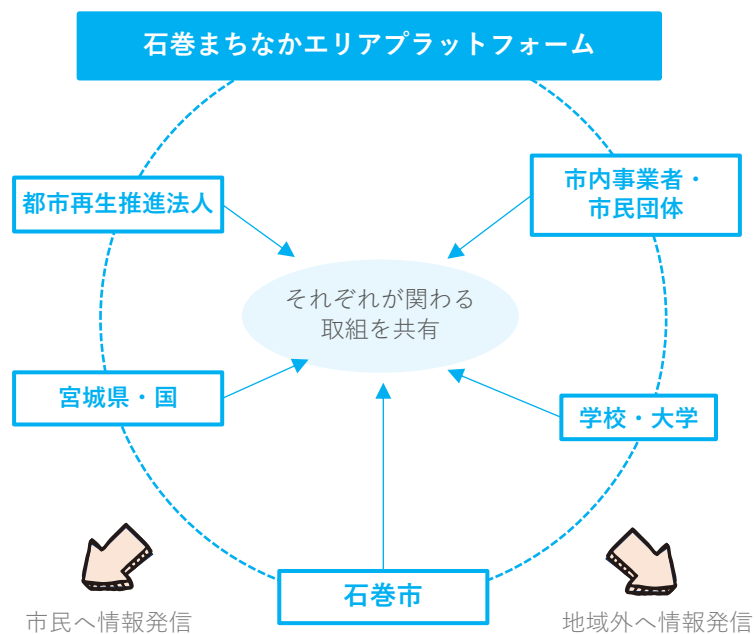
b) 各プロジェクトを推進していく手法を検討する！

- ・各事業を推進していくための費用や人材を確保する。
- ・会費収入や広告・駐車場収入など、まちなかの魅力向上や課題解決につながり、かつ収益を上げられる方法について、まちづくりに関する制度を活用しながら検討していく。



各プロジェクトを推進するチームが集まり発信する場を設ける。総会や役員会、定例会等階層ごとの会議を適宜開催し、各プロジェクトの共有と市民等に向けた発信を行う。プロジェクトチームは、今後のまちづくり状況に応じて追加していく。

実施フローのイメージ



すでに起こっているアクション



石巻まちなかエリアプラットフォームの設立
令和7年1月9日に、エリアプラットフォーム設立総会が開催されました。

第5章

プロジェクトを進めていくにあたって

(1) 活用可能な助成・制度等

各プロジェクトの実施にあたっては、国・県などの関係機関と密に連携し有効な助成金や制度を民間事業者と共有しながら進める。未来ビジョンに記されている取組を実施する上で有効と考えられるものは以下のとおり。

■中心市街地におけるイベントの開催等の際して

- ・石巻市街なかイベント開催助成金

■公共空間等における持続的な管理運営の際して

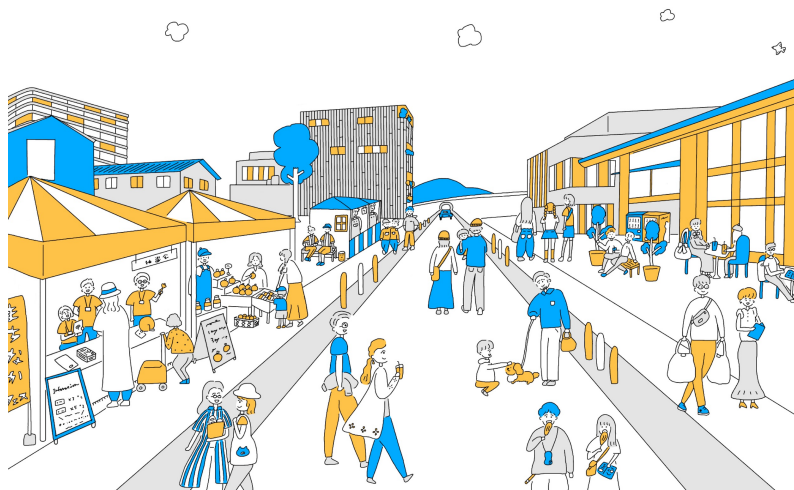
- ・都市利便増進協定
- ・歩行者利便増進道路（ほこみち）制度

■中心市街地における遊休不動産等の活用等の際して

- ・石巻市空き地・空き店舗活用事業助成金
- ・都市再生整備計画事業
- ・低未利用土地利用促進協定
- ・ウォークブル推進税制
- ・官民連携まちなか再生推進事業
- ・民都機構による金融支援メニュー 等

第5章

プロジェクトを
進めていくに
あたって



(2) ロードマップ

プロジェクトの熟度に応じて進める。社会実験等を重ねながら常に改良していくプロセスを心がける。

川沿いエリア

	R7~R9	R10~R12	R13~R16
1 北上川であそぼう	実践	ブラッシュアップ・アップデート	
2 川沿いをみんなの広場に	実践	ブラッシュアップ・アップデート	
3 空き地・空き店舗活用	体制検討・実験	実践	ブラッシュアップ・アップデート
4 まちの宝を見える化・磨き上げ	体制検討・実験	実践	ブラッシュアップ・アップデート
5 川沿いの街並みづくり	体制検討	実践(策定・運用)	ブラッシュアップ・アップデート
6 交通アクセス改善	体制検討・実験	実践(提言等)	ブラッシュアップ・アップデート
7 中瀬の居場所づくり	体制検討・実験	整備・運用	ブラッシュアップ・アップデート
8 エリアマネジメントの推進	体制検討・実践	実践	ブラッシュアップ・アップデート

駅前、立町・中央エリア

	R7~R9	R10~R12	R13~R16
1 まちのチャレンジ応援	体制検討・実験	実践	ブラッシュアップ・アップデート
2 石巻のまち“のこし”	体制検討・実験	実践	ブラッシュアップ・アップデート
3 “もっと居たくなる”まちなか	体制検討・調査	実践	ブラッシュアップ・アップデート
4 まちを楽しく発信	体制検討・実践	実践	ブラッシュアップ・アップデート
5 訪れやすいまちなか	体制検討・調査	実践(策定・運用)	ブラッシュアップ・アップデート
6 駅前の居場所づくり	体制検討・実験	実践(提言等)	ブラッシュアップ・アップデート
7 エリアマネジメントの推進	体制検討・実践	実践	ブラッシュアップ・アップデート

第5章

プロジェクトを
進めていくに
あたって

